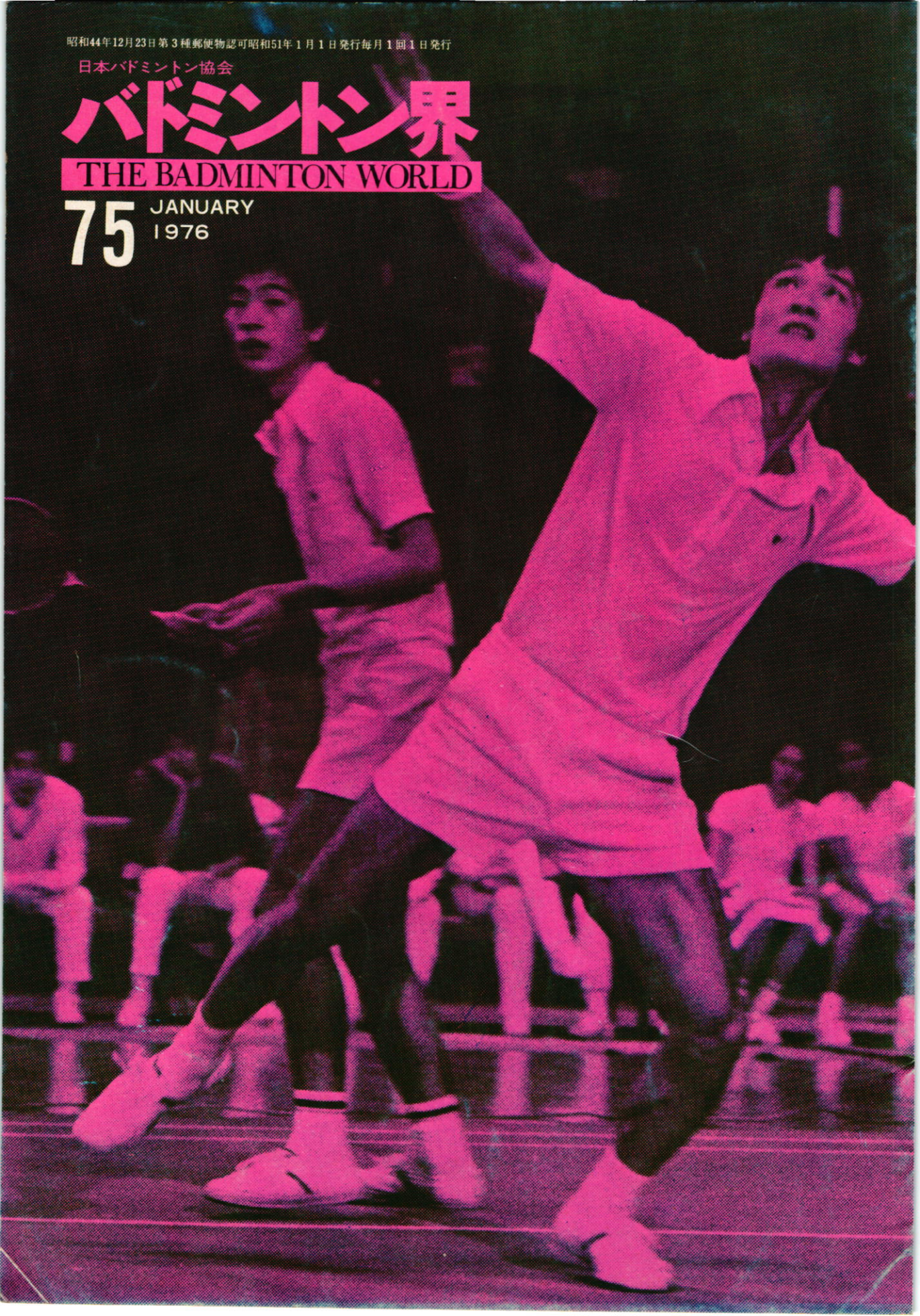
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和51年1月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

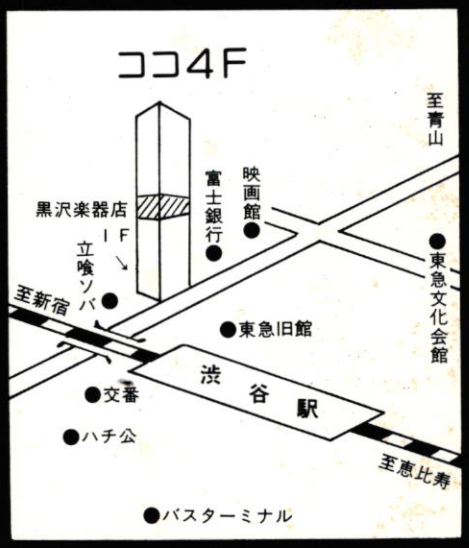
75 JANUARY 1976



世界で初めて
BADMINTONだけの

ラケットショップ元町 ・渋谷店

☎03−400−7390



バドミントン界
THE BADMINTON WORLD
NO. 75
1976年1月号　目次

表紙撮影，本文中写真・山田真市

●第30回国民体育大会秋季大会
神奈川が2年ぶり10度目の栄冠（一般男子）……2
気力でナショナル・チーム東京を降す
東京，他県を寄せつけずに完勝（成年女子）……6
うまさの石川，群馬の若さをはね返す（教員男子）……7
奈良，富田を軸にあぶなげなく三度目の優勝（少年男子）……8
大阪，実力どおりの完勝（少年女子）……10

●昭和50年度関東学生秋季リーグ戦
法大わずか3ポイント差で優勝……12
女子は日体大が5戦全勝とげる
第二部は慶大と早大が優勝……16
名門立大ついに全敗，昭女大は三部に降格

●第26回全日本学生選手権大会
土田，卜杯代表の実力を発揮し優勝……18
一年生・長谷川，大健闘の2位―女子は徳田が単複制す

●昭和50年度関東学生選手権新人戦
中央大，日本女子体育大それぞれ優勝……21
男女とも連日白熱の大接戦を展開

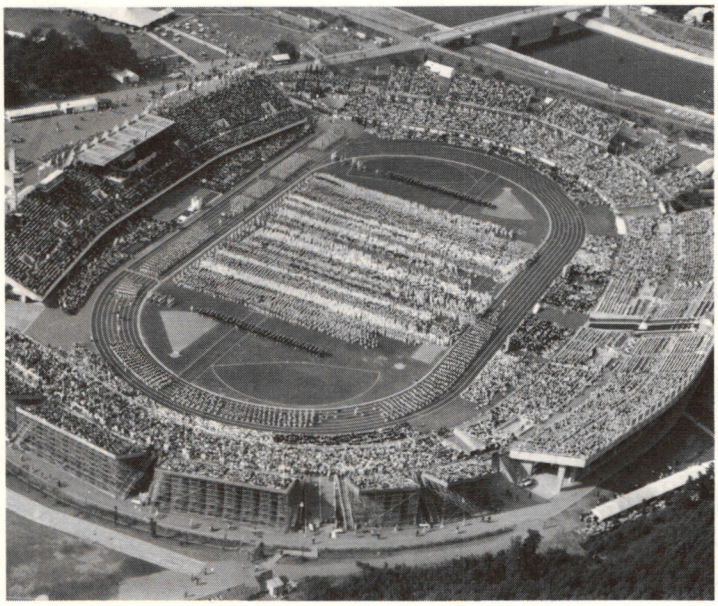
●22回東北学生バドミントン選手権大会
三浦が全種目制覇，女子は宮城学院……24
佐藤友美，シングルス制す

第10回世界バドミントン選手権大会組合せ……25
北から南から●各地のたより……26
岡山・大阪・名古屋
昭和50年度・日本バドミントン協会検定審査用具一覧表……28
1975年度の記録……30

●料金・定価改訂のお知らせ……31
●「ユーバー杯奪還への道」刊行のお知らせ……32
●大会予定カレンダー……32

10度目の栄冠

第30回
国民体育大会
秋季大会



空から見た総合開会式



聖火・国体旗の入場

少年少女の精進に期待

——総評

日本バドミントン協会理事長　小宮淳宏

第30回国民体育大会秋季大会バドミントン競技会は、六月にユーバー杯戦でインドネシアに敗れ、七六年三月までのトマス杯戦アジア予選をひかえるちょうど中間の時期に行われた。

地元三重県チームの予想以上の善戦をおりまぜながら、とくに目についたのは、下位チームの充実というか、全般的な競技力の向上により初回戦から接戦が多かったことと、各ブロックごとに選びぬかれた少年少女諸君がそれぞれめぐまれた素質をもつことの二点であった。とくにこの有望な少年少女の皆さんの今後の精進を心から祈りたい。

一方、ナショナルチームのメンバーは精彩がなく、単複にベストをつくした小島一平と、湯木博恵の両選手のほかは、物たりない感をまぬかれなかった。

最近の各大会のハードなスケジュールは選手の健康の上からも、高度な競技内容の追求の上からも再検討すべきで、本大会の二試合先取打切りの実施は、この面からも適切であった。

しかし、ダブルス出場のプレーヤーが直ちにシングルスを行うケースがあるのは、きわめて過重な負担であり、対策を要する点ではないかと思った。

◆気力でナショナル・チーム東京を降す◆

一般男子 神奈川が2年ぶり

◆成年（一般）男子▼一回戦

熊本 2 — 長野 0
- 工土恭司 / 坂本美喜雄 2 — 15-13 15-4
- 下島修 / 小松茂博 0

三重 2 — 群馬 0
- 井上英夫 / 千明博 1 — 6-15 17-15 15-11
- 増井孝夫 / 小林信行 2 — 15-1 15-0

高浜道雄 2 — 杉本良洋 0
- 15-5 15-9

工土恭司 / 坂本美喜雄 2 — 愛媛 0
- 15-13 15-4
- 竹内洋雅 / 田中政剛 0

塩飽初 / 平松重吉 2 — 兵庫 0
- 15-16 15-11
- 星野忠男 / 山蔭栄 0

真壁年一 / 植田寛 2 — 島根 0
- 15-5 15-8
- 戸井田誠 0

森田幸男 2 — 奈良 0
- 15-1 15-0
- 浅利竜徳 / 斎藤和則 0

尾崎幹雄 / 飯野佳孝 2 — 青森 0
- 15-5 15-3
- 山崎定利 0

堀口稔 2 — 埼玉 0
- 15-5 15-4
- 藤田昶 1

菊地正 2 — 秋田 0
- 12-15 15-13 15-7
- 宮崎 1

舟山敏彦 / 遠藤昭夫 2 — 長野 0
- 15-4 15-3
- 徳永英敏 / 大重裕美 0

木村敬次 2 — 千葉 0
- 15-1 15-2
- 広田彰 0

田所光男 / 浜谷安裕 2 — 高知 0
- 15-0 15-3
- 岡林空 / 田代豊 0

小柳博 2 — 栃木 0
- 15-4 18-14
- 松井智治 0

三木隆康 / 三村由岐男 2 — 福岡 0
- 15-1 15-5
- 吉良悠一 / 西本孝 0

黄倉隆夫 2 — 大阪 0
- 18-13 15-6
- 野見山弘次 0

寺崎由雄 / 近藤孝晴 2 — 岩手 1
- 15-8 11-15 18-12
- 滝野公一 / 岩田昇 0

近藤孝晴 2 — 徳島 0
- 15-8 15-8
- 池田文昭 0

小嶋清治 / 脇坂重之 2 — 静岡 0
- 15-11 15-10
- 森茂行 / 勢嘉雅章 0

吉川正行 0 — 山下哲男 2
- 14-17 9-15
- 0

小嶋清治 2 — 森茂行 0
- 15-2 15-7
- 0

鬼柳孝夫 / 高橋道夫 2 — 鳥取 0
- 15-11 18-17
- 高真広 / 木村和夫 0

高橋利行 2 — 沖縄 0
- 15-7 15-7
- 栗原隆政 0

日下昇 / 横田泰徳 2 — 山形 0
- 15-3 15-5
- 宮城道雄 / 比嘉盛二 0

辻本義文 2 — 大山基 0
- 15-8 15-3
- 0

南雲文彦 / 田上義美 2 — 高橋信一 / 吾妻正幸 1
- 5-15 15-9 15-5
- 0

矢島信夫 0 — 吉住彰 2
- 12-15 9-15
- 0

南雲文彦 2 — 高橋信一 0
- 15-10 15-1
- 0

捧勇 / 鈴木裕 2 — 中野和雄 / 辻優 0
- 15-4 15-11
- 0

捧勇 2 — 中野和雄 0
- 15-1 15-7
- 0

笠井好美 / 西島知彦 2 — 川村桂司 0
- 15-12 18-15
- 森隆 0

井出裕雄 1 — 宇治収 2
- 18-16 6-15 10-15
- 0

笠井好美 2 — 川村桂司 1
- 9-15 15-12 15-11
- 0

▼二回戦

東京 2 — 熊本 0
- 1-0
- 0

池田信孝 / 栂野尾昌一 2 — 埼玉 0
- 15-2 15-2
- 工土恭司 / 坂本美喜雄 0

銭谷欽治 2 — 鹿児島 0
- 15-8 15-8
- 工土恭司 0

末広秀樹 / 河添忠夫 2 — 京都 0
- 15-13 15-13
- 高木金次 / 永井博 0

坂本賢二 2 — 大分 1
- 15-12 15-3
- 長崎久次 0

増井孝夫 / 小林信行 1 — 宮原秀三 / 春武俊一 2
- 15-8 12-15 8-15
- 0

山口香 2 — 森裁美 0
- 15-4 15-3
- 0

増井孝夫 2 — 宮原秀三 1
- 15-5 15-11 15-3
- 0

及川憲一 / 渡辺正喜 2 — 塩飽初 / 平松重吉 0
- 15-9 15-9
- 0

山並正人 2 — 森田幸男 0
- 15-9 15-6
- 0

木村敏男 / 遠藤好男 2 — 真壁年一 / 植田寛 0
- 15-11 15-3
- 0

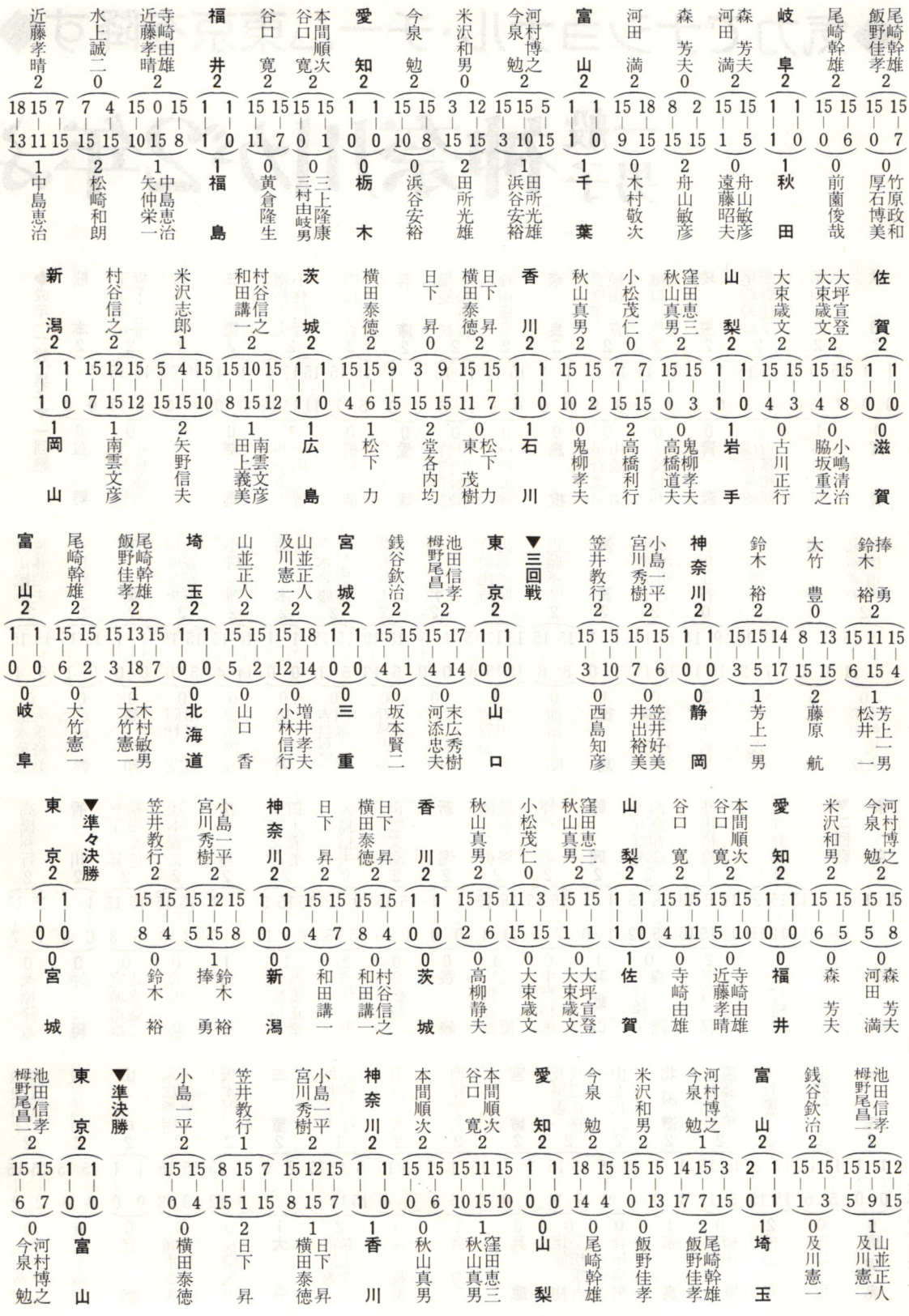
遠藤好男 2 — 堀口稔 0
- 15-6 15-5
- 0

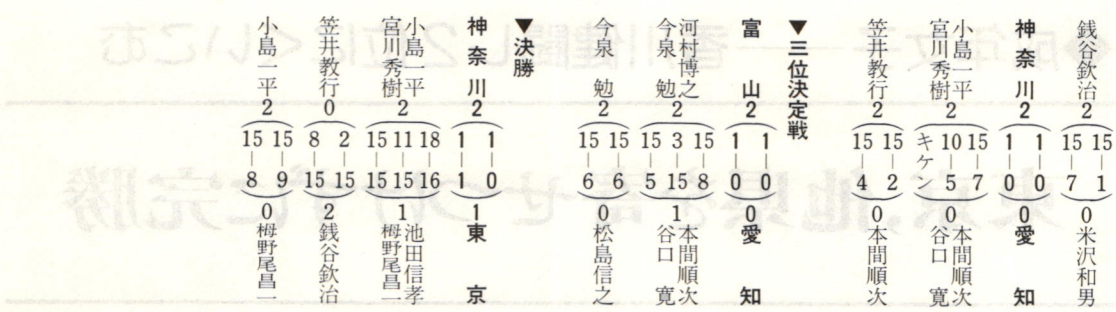
大竹憲一 0 — 植田寛 2
- 2-15 15-11
- 2

北海道 2 — 奈良 1
- 1-0
- 1

宮城 2 — 兵庫 0
- 1-0
- 0

●1975年総集号


尾崎幹雄 2
飯野佳孝 2
15 15 — 15 7 — 0
0 厚石博美
竹原政和
岐阜 2
1 1 — 1 0 — 1
1 秋田
舟山敏彦
森 芳夫
河田 満 2
15 15 — 15 5 — 0
0 遠藤昭夫
尾崎幹雄 2
15 15 — 6 0 — 0
0 前薗俊哉
富山 2
1 1 — 1 0 — 1
1 千葉
田所光雄
今泉 勉 2
15 15 5 — 3 10 15 — 1
1 浜谷安裕
河村博之
河田 満 2
15 18 — 9 15 — 0
0 木村敬次
森 芳夫 0
8 2 — 15 15 — 2
2 舟山敏彦
愛知 2
1 1 — 0 0 — 0
0 栃木
三上隆康
今泉 勉 2
15 15 — 10 8 — 0
0 浜谷安裕
本間順次 2
15 15 — 0 1 — 0
0 三村由岐男
谷口 寛 2
15 15 — 11 7 — 0
0 黄倉隆生
福井 2
1 1 — 1 0 — 1
1 福島
寺崎由雄
近藤孝晴 2
15 0 15 — 10 15 8 — 1
1 矢仲栄一
中島恵治
水上誠二 0
7 4 — 15 15 — 2
2 松崎和朗
近藤孝晴 2
18 15 7 — 13 11 15 — 1
1 中島恵治
米沢和男 0
3 12 — 15 15 — 2
2 田所光雄
佐賀 2
1 1 — 0 0 — 0
0 滋賀
大坪宣登
大東歳文 2
15 15 — 4 8 — 0
0 脇坂重之
小嶋清治
大東歳文 2
15 15 — 4 3 — 0
0 古川正行
山梨 2
1 1 — 1 0 — 1
1 岩手
窪田恵三
秋山真男 2
15 15 — 0 3 — 0
0 高橋道夫
鬼柳孝夫
小松茂仁 0
7 7 — 15 15 — 2
2 高橋利行
秋山真男 2
15 15 — 10 2 — 0
0 鬼柳孝夫
香川 2
1 1 — 1 0 — 1
1 石川
日下 昇
横田泰徳 2
15 15 — 11 7 — 0
0 東 茂樹
松下 力
日下 昇 0
3 9 — 15 15 — 2
2 堂各内均
横田泰徳 2
15 15 9 — 4 6 15 — 1
1 松下 力
茨城 2
1 1 — 1 0 — 1
1 広島
村谷信之
和田講一 2
15 10 15 — 8 15 12 — 1
1 南雲文彦
田上義美
村谷信之 2
15 12 15 — 7 15 12 — 1
1 南雲文彦
米沢志郎 1
5 4 15 — 15 15 10 — 2
2 矢野信夫
新潟 2
1 1 — 1 0 — 1
1 岡山
捧 勇 2
鈴木 裕 2
15 11 15 — 6 15 4 — 1
1 松井 一
芳上一男
大竹 豊 0
8 13 — 15 15 — 2
2 藤原 航
鈴木 裕 2
15 15 14 — 3 5 17 — 1
1 芳上一男
小島一平 2
宮川秀樹 2
15 15 — 7 6 — 0
0 井出裕美
笠井好美
神奈川 2
1 1 — 1 0 — 0
0 静岡
笠井教行 2
15 15 — 3 10 — 0
0 西島知彦
▼三回戦
池田信孝
栂野尾昌一 2
15 17 — 4 14 — 0
0 河添忠夫
末広秀樹
東京 2
1 1 — 0 0 — 0
0 山口
山並正人
及川憲一 2
15 18 — 12 14 — 0
0 小林信行
増井孝夫
山並正人 2
15 15 — 5 2 — 0
0 山口 香
埼玉 2
1 1 — 0 0 — 0
0 北海道
尾崎幹雄
飯野佳孝 2
15 13 15 — 3 18 7 — 1
1 大竹憲一
木村敏男
尾崎幹雄 2
15 15 — 6 2 — 0
0 大竹憲一
富山 2
1 1 — 0 0 — 0
0 岐阜
銭谷欽治 2
15 15 — 4 1 — 0
0 坂本賢二
宮城 2
1 1 — 0 0 — 0
0 三重
河村博之
今泉 勉 2
15 15 — 5 8 — 0
0 河田 満
森 芳夫
米沢和男 2
15 15 — 6 5 — 0
0 森 芳夫
愛知 2
1 1 — 0 0 — 0
0 福井
本間順次
谷口 寛 2
15 15 — 5 10 — 0
0 近藤孝晴
寺崎由雄
谷口 寛 2
15 15 — 4 11 — 0
0 寺崎由雄
山梨 2
1 1 — 1 0 — 1
1 佐賀
窪田恵三
秋山真男 2
15 15 — 1 1 — 0
0 大東歳文
大坪宣登
小松茂仁 0
11 3 — 15 15 — 0
0 大東歳文
秋山真男 2
15 15 — 2 6 — 0
0 高柳静夫
香川 2
1 1 — 0 0 — 0
0 茨城
日下 昇
横田泰徳 2
15 15 — 8 4 — 0
0 和田講一
村谷信之
日下 昇 2
15 15 — 4 7 — 0
0 和田講一
神奈川 2
1 1 — 1 0 — 0
0 新潟
小島一平
宮川秀樹 2
15 12 15 — 5 15 8 — 1
1 捧 勇
鈴木 裕
笠井教行 2
15 15 — 8 4 — 0
0 鈴木 裕
▼準々決勝
東京 2
1 1 — 1 0 — 0
0 宮城
池田信孝
栂野尾昌一 2
15 15 12 — 5 9 15 — 1
1 山並正人
及川憲一
銭谷欽治 2
15 15 — 1 3 — 0
0 及川憲一
富山 2
2 1 — 0 1 — 1
1 埼玉
河村博之
今泉 勉 1
14 15 3 — 17 7 15 — 2
2 尾崎幹雄
飯野佳孝
米沢和男 2
15 15 — 0 13 — 0
0 飯野佳孝
今泉 勉 2
18 15 — 14 4 — 0
0 尾崎幹雄
愛知 2
1 1 — 0 0 — 0
0 山梨
本間順次
谷口 寛 2
15 11 15 — 10 15 10 — 1
1 秋山真男
窪田恵三
本間順次 2
15 15 — 0 6 — 0
0 秋山真男
神奈川 2
1 1 — 1 0 — 1
1 香川
日下 昇
小島一平
宮川秀樹 2
15 12 15 — 8 15 7 — 1
1 横田泰徳
笠井教行 1
8 15 7 15 — 15 1 15 — 2
2 日下 昇
小島一平 2
15 15 — 0 4 — 0
0 横田泰徳
▼準決勝
東京 2
1 1 — 0 0 — 0
0 富山
池田信孝
栂野尾昌一 2
15 15 — 6 7 — 0
0 今泉 勉
河村博之



気力、体力で上回った小島

——戦評

日本バドミントン協会常務理事　内藤安雄

成年男子一般の部は、宿敵同士の対決となったが、神奈川はよくダブルスを制して、優位にたち、第二試合は失ったものの、小島はストレートで梅野尾を降し、第三試合をものにして、二年ぶり通算一〇度目の栄冠を獲得した。

ダブルスを制することは、国体競技勝利の要件であり、戦前の予想としては、東京がはるかに神奈川を上回り、よもや東京が、ダブルスを失うとは、予想だに許されなかった。

しかし、結果はどうだったか。第一試合のダブルスは、第一、第二、第三ゲームともに、東京は緒戦において十分リードを保っていた。第二ゲームは、かろうじて逃げきったもの、、第一、第三ゲームは、後半梅野尾、池田の凡ミスに乗じた神奈川の押込みに逆転を許し、遂に東京はこの貴重な第一試合を失ったのである。こうなった以上、東京に残された唯一の作戦は、第二試合の銭谷に時間をかけずに笠井を降させ、疲労その極に達している小島を、そのまま梅野尾にぶつけて、一挙に逆転する以外に方法はないはずだ。

一方、笠井にしてみれば、(ここ一番、じっくり喰い下って勝利するか、さもなければ)エース小島の回復に必要にして十分な時間をかせぐか、いずれかである。結果はどうであったか、第二試合所要時間は二十二分、笠井は執拗に喰い下って、小島の復調に十分とはいえないまでも必要な時間をかせぎ、所期の目的を達して小島に最終戦の決着をゆずったのである。

第三試合は、梅野尾と小島の対決。わが国最高のカードといっても過言でなく、満場の耳目を集中させたことはもちろんであったが、梅野尾の小島に対する日頃の執念に何か、欠けるものがあった様に感じたのは筆者のみだったろうか。

第一ゲームは梅野尾リードのまま展開され、9-5のところで6回サーブ権の移動があり、ゲームの展開が止ったかに感じたが、その後、梅野尾のミスに乗じた小島の気魄のプレーに、にわかにゲームの流れは変わり、一挙に10ポイントを失い、小島に逆転を許してしまった。第二ゲームは終始小島リードのままずさまじいばかりの気力の前に、梅野尾は地力の片鱗すら見せず破れ去ったのである。

「一に気力、二に体力、三、四がなくて五に技術」これは観戦後の実感である。

決して、日本のトップ・プレーヤーを揶揄しているのではない。

いくつかのストローク、いくつかのフライト、幾通りかのコースを、打つ瞬間に一つずつだけ選択して、動きの中で捕らえて、対手を苦しめ、自らを優位に立たしめるのがバドミントンである。すなわち、動きの中で、効果的な組合せを択一出来る能力がバドミントンの技術である。

現在のトップ・プレーヤーは最も効果的な択一能力のほかに、より高次元な能力、例えば、フェイント・モーション、あるいは、フェイントを見破るアンティシペーション(予見力)を兼ねそなえているから、トップ・プレーヤーたり得るのであるが、もし、かりに、これら高次元な技術を具備した選手が、ともに激突した場合、技術が技術を制することが出来るだろうか、出来ない時だってあり得るのである。現にあったから、あえて問題を提起するのである。かつて堺・宮永というダブルスがあった。また、秋山・小島というダブルスもあった。ともに根性で、世界にその勇名を馳せたものである。しかし、梅野尾・池田のダブルスは、絶妙なコンビネーション、いわば、技術で日本のバドミントンを世界に紹介したと筆者は評価している。

所詮、人間のやることだから、体力にも限界がある。技術にも行きつく所はあるだろう。しかし、体力的な限界を、行きついた技術を、一日でも、一歩でも昇華させうるものは、はげしい闘志と、むきだしの気力をおいて他にないと考える。

両選手の消長は、今やわが国バドミントンの消長に通じ、その脱皮こそ、日本のバドミントンの発展の方法論であると信じればこそ、なお一層の気力の充実を祈るや切である。

◆「ユーバー杯奪還への道」が刊行されます(詳しくは32ページを)

◆成年女子——香川健闘し2位にくいこむ

東京，他県を寄せつけずに完勝

◆成年女子▼一回戦

熊本2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0高知
弓削鈴子 斎藤君子 2 (15-15 / 15-8 / 3-0) 楠瀬美佐恵 田中由美
弓削鈴子 2 (12-11 / 10-4) 0長井美枝
福井2 (1-1 / 0-0 / 0-0) 0愛知
山本小夜子 中村正枝 2 (15-11-15 / 12-15-7) 1宮内すみ子 布上茂美
山本小夜子 2 (12-0-11-6 / 10-11) 1布上茂美

▼二回戦

東京2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0熊本
湯木博恵 池田美加 2 (15-15 / 2-10) 0弓削鈴子 斎藤君子
池田美加 2 (11-11-11 / 4-4-12) 1弓削鈴子
丸山富江 永田美登里 2 (15-15-8 / 10-10-15) 1水谷純子 山森明美
丸山富江 0 (8-2 / 11-11) 2山森明美
永田美登里 2 (11-11 / 3-3) 0田中恵美子
富山2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0兵庫
山口2 (1-1 / 1-0 / 1-0) 1三重
塩崎睦子 京田恵津子 2 (15-18 / 10-14) 0朝日昌子 北村秀子
京田恵津子 2 (11-12 / 9-10) 0北村秀子
岐阜2 (1-1 / 1-0 / 1-0) 1宮城
広沢功子 名和和子 2 (15-15-11 / 10-3-15) 1渡辺正栄 渡辺典子
多賀洋子 1 (5-11-4-11 / 11-8-11) 2渡辺正栄
名和和子 2 (11-12 / 2-11) 0渡辺典子
岡山2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0北海道
石田雅子 三田明子 2 (15-15 / 2-1) 0高野美千子 藤島百子
石田雅子 2 (11-11 / 5-2) 0藤島百子
栃木2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0和歌山
藤井由美子 沼能久子 2 (15-15 / 3-2) 0湯川泰子 村崎敦子
青木恵美子 2 (11-11 / 6-7) 0酒井澄子
長崎2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0秋田
樋口省子 斎藤康子 2 (15-18-12 / 6-13-15) 1佐藤厚子 三浦佳子
樋口省子 2 (11-11 / 6-9) 0樋渡満子
香川2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0福井
川東秀美 山口豊子 2 (15-15 / 6-11) 0山本小夜子 中村正枝

▼準々決勝

香川2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0長崎
川東秀美 山口豊子 2 (15-15 / 7-2) 0樋口省子 斎藤康子
田所静子 2 (11-11-3 / 3-2-11) 1樋口省子
田所静子 2 (12-11-7 / 9-0-11) 1山本小夜子

▼準決勝

東京2 (2-0 / 2-0 / 1-0) 1岐阜
湯木博恵 池田美加 0 (9-12 / 15-15) 2広沢功子 名和和子
湯木博恵 2 (11-11 / 4-0) 0名和和子
池田美加 2 (11-11 / 2-6) 0広沢功子
香川2 (1-1 / 1-0 / 1-0) 1岡山

▼三位決定戦

岡山2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0岐阜
石田雅子 三田明美 2 (15-15 / 12-10) 0広沢功子 名和和子
石田雅子 2 (11-11 / 4-4) 0広沢功子
川東秀美 山口豊子 2 (18-15 / 15-12) 0石田雅子 三田明美
田所静子 0 (9-6 / 11-11) 2石田雅子
川東秀美 2 (11-11 / 4-1) 0藤原敦子

▼決勝

東京2 (1-1 / 1-0 / 0-0) 0香川
湯木博恵 池田美加 2 (15-15 / 11-7) 0川東秀美 山口豊子
湯木博恵 2 (11-11 / 3-2) 0田所静子

香川の善戦、湯木に通ぜず

——戦評

日本バドミントン協会代議員　伊豆　晃

東京の完勝に終わった。まずダブルスは香川県チーム川東の左が有効にきまり、善戦したが湯木のたくみなラケットワークにあしらわれた。

とくに湯木のバックハンドストロークがよく決まった。

シングルスは田所のサービスミスが多く、ここでというところでポイントをあげられずに終わってしまった。

◆成年（教員）男子——エース長谷川大活躍

うまさの石川、群馬の若さをはね返す

◆成年（教員）男子▼一回戦

群馬 2 (1-1-0) 1 香川
今井勇司 / 桐生吉次郎 2 (15-15-9) 0 藤原和文 / 森田桂示
関 俊夫 1 (7-7-15-3) 2 永原浩治
今井勇司 2 (15-15-6) 0 藤原和文
岡山 2 (1-1-0) 1 愛知
三宅 勝 / 小田和文 2 (15-10-15-3) 1 平松孝孔 / 八神由一
小田和文 1 (5-1-15-15-11) 2 平松孝孔
三宅 勝 2 (15-15-2) 0 八神由一
▼準々決勝
群馬 2 (1-1-0) 0 和歌山
今井勇司 / 桐生吉次郎 2 (15-15-6-7) 0 門間幹夫 / 武藤隆志
今井勇司 2 (15-15-8) 0 森 隆
三重 2 (1-1-0) 0 北海道
平田欽也 / 西城 博 2 (15-8-15-2) 1 杉田茂良 / 菅原宏志
平田欽也 2 (15-15-5) 0 菅原宏志
宮城 2 (1-1-0) 1 熊本
渡部紘一 / 木戸純一 2 (18-15-7-15-18) 1 工藤勇参 / 稲津 悟
渡部紘一 0 (3-7-15) 2 工藤勇参
石川 2 (1-1-0) 0 岡山
長谷川進 / 原 栄一 2 (15-15-7) 0 三宅 勝 / 小田和文
木戸純一 2 (15-15-8-9) 0 稲津 悟
和田 修 2 (15-15-5-12-15) 1 三宅 勝
▼準決勝
群馬 2 (1-1-0-0) 0 三重
今井勇司 / 桐生吉次郎 2 (15-12-15-7) 1 平田欽也 / 西城 博
桐生吉次郎 2 (15-11-15-12) 1 平田欽也
原 栄一 / 長谷川進 2 (15-11-15-15-12) 1 渡部紘一 / 木戸純一
和田 修 0 (5-5-15) 2 木戸純一
長谷川進 2 (15-15-1-6) 0 渡部紘一
▼三位決定戦
宮城 2 (1-1-0) 1 三重
渡部紘一 / 木戸純一 2 (15-15-2-15-9) 0 平田欽也 / 西城 博
木戸純一 1 (0-15-15-12-12-15) 2 西城 博
渡部紘一 2 (15-2-15-15-6) 1 平田欽也
▼決勝
石川 2 (1-1-0-0) 0 群馬
原 栄一 / 長谷川進 2 (15-15-10-6) 0 今井勇司 / 桐生吉次郎
長谷川進 2 (15-15-12-10) 0 桐生吉次郎

長谷川鋭いネットプレーで一気に逆転

——戦評

日本バドミントン協会代議員　伊豆　晃

老練な石川と、若さの群馬の対決で興味がもたれたが、石川のうまさに群馬があしらわれた感じがした。

ダブルスは一ゲーム群馬のミスが最初に目立ち、終始石川が先行して終わった。第二ゲームは4—0と群馬が先行して白熱したが、つづいて6ポイント連続失点でそこまでであった。

シングルスは群馬桐生選手のサイドとバックのオーバーが目立ち、これも連続6失点で苦しいスタート、中盤ジリジリ追い上げたが、10—8で息切れしたようであった。

第二ゲームは、桐生選手9—3とリードしたが、中盤長谷川選手のするどいネットプレーに逆転され、15—9で敗れ去った。



◆少年男子——地元三重もベスト4に

奈良、富田を軸にあぶなげなく二度目の優勝

◆少年男子▼一回戦

長崎 2 (1-1-0) 0 岡山
森俊弘 2 (15-15-9) 0 藤原道弘
淵上竹見 (15-7) 片岡正之

森俊弘 2 (15-12-15-3) 0 平田重男
香川 2 (1-1-0) 0 北海道
松村伸二 2 (15-6-15-3) 0 三谷裕司
三島敏弘 (15-6) 広川幸児

宮宇地宏 2 (15-7-15-12) 0 吉田茂徳
▼準々決勝
奈良 2 (1-1-0) 0 長崎
吉岡伸浩 2 (15-15-7) 森俊弘
冨田章夫 (15-7) 0 淵上竹見

吉岡伸浩 2 (15-5-15-6) 0 森俊弘
三重 2 (1-1-0) 1 栃木
浅沼正義 2 (15-13-15-6) 0 市村匡
山西友幸 (15-13) 水野谷厚

小山敏男 0 (9-15-11-15) 0 市村匡
浅沼正義 2 (15-8) 0 水野谷厚
宮城 2 (1-1-0) 1 愛知
橘川光孝 2 (18-13-15-10-6-15) 1 日比野伸昭
沼沢隆 (15-10) 松村昌

宍戸陸夫 0 (11-15-10-15) 2 日比野伸昭
橘川光孝 2 (15-8-15-11) 0 松村昌
石川 2 (1-0-1-0) 0 香川
宮森庄吉 2 (15-9-15-3) 0 松村伸二
酒井真人 (15-9) 三島敏弘

坂本宏志 2 (15-12-15-1) 0 宮宇地宏
▼準決勝
奈良 2 (1-1-0) 1 三重
吉岡伸浩 2 (15-6-15-8) 0 山西友幸
冨田章夫 0 (9-15-14-17) 2 浅沼正義

吉岡伸浩 2 (15-4-15-10) 0 浅沼正義
山西友幸
冨田章夫 0 (9-15-14-17) 2 浅沼正義
石川 2 (1-0-1-0) 0 宮城
宮森庄吉 2 (15-5-15-3) 0 沼沢隆
酒井直人 橘川光孝

坂本宏志 2 (15-13-15-8) 0 宍戸隆夫
▼三位決定戦
宮城 2 (2-0-0-1) 1 三重
橘川光孝 1 (6-15-8-15-15-4) 2 浅沼正義
沼沢隆 山西友幸

宍戸隆夫 2 (15-11-18-16) 0 浅沼正義
橘川光孝 2 (15-11-15-15-15-6) 1 小山敏男
▼決勝
奈良 2 (1-1-0) 0 石川
冨田章夫 2 (18-14-15-11) 0 坂本宏志
吉岡伸浩 (15-10-15-3) 宮森庄吉

前陣速攻の基本プレーに好感

——戦評

日本バドミントン協会常務理事　遠井稔男

少年男子の部は、あぶなげなく奈良県が石川県を破り、三度目の優勝を飾った。

奈良は正強高の富田・吉岡・田島の単独チームに対し、石川は金沢工高の宮森・酒井と七尾農高の坂本の混成チームである。

夏の全国大会では団体戦と個人戦のそれぞれ決勝戦のダブルスで対戦し、一勝一敗の成績であったため非常に関心が強かった。

とくにこのダブルスは全日本ナンバーワンの池田・栂野尾を連想させるペアでもある。富田（一八〇台）吉岡（一六〇台）の奈良ペアに対し、宮森・酒井も奈良同様に長短身のペアである。

ダブルスのゲーム内容は、2—0のストレートで奈良が勝った。奈良はトップに吉岡をバックに富田をおき、一方石川は酒井を前に、宮森を後におき、前後陣型でゲームが展開された。

とくに吉岡のネット前での幅広い動きのプレーが、パートナー富田の強烈なスマッシュの連打に結びついた。宮森・酒井につけいるスキを与えなかったのがこの結果となった。

両ペアとも前後陣型の攻守を中心とする戦法で前陣速攻の基本的プレーには好感がもてた。

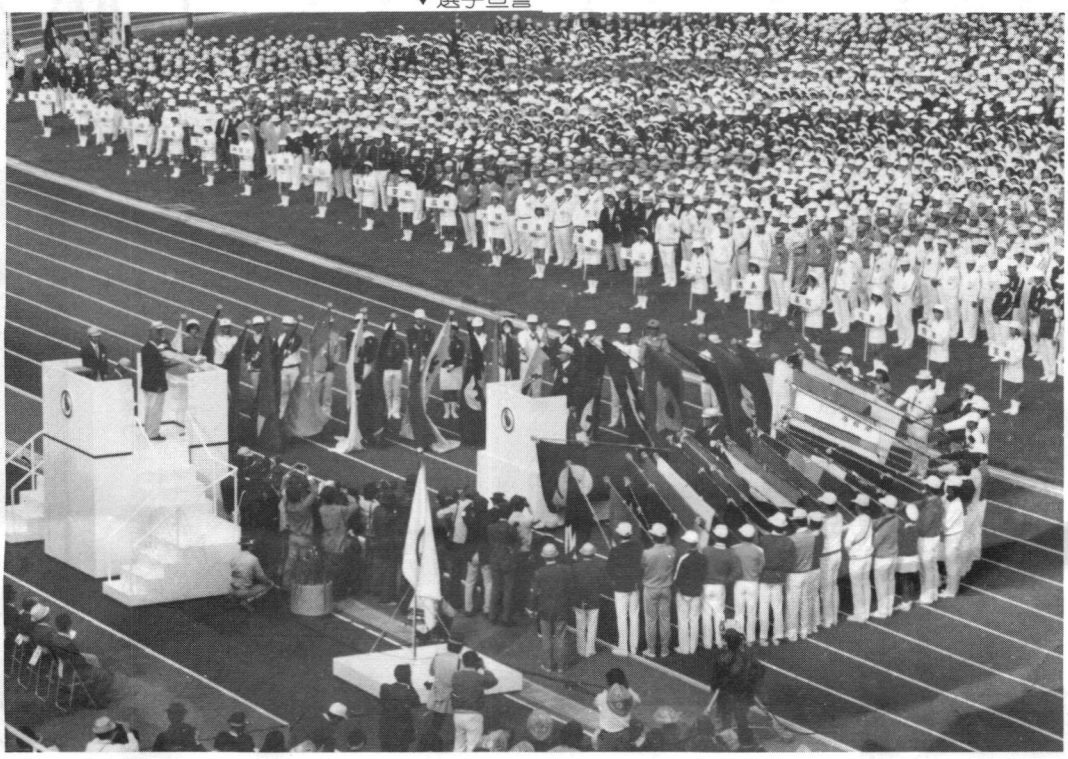
一方、シングルスでは、富田が、ストレートで坂本を破った。エンジンフル回転の富田は、落差の大きいスマッシュを連打し、第一、第二ゲームともに必死でくいさがる坂本を振り切った。

少年男子の部は、単・複ともに奈良県の気合勝ちといった感じが強かった。



▲開会式における両陛下

▼選手宣誓



◆「ユーバー杯奪還への道」が刊行されます（詳しくは32ページを）

◆少年女子——三重大声援を背に二位に入賞

大阪、実力どおりの完勝
——植野余裕のプレー

◆少年女子▼一回戦

山形2 (1-1 1-0) 1東京
- 小松澄子 15-9 2
- 松田優子 15-11 2
- 遠藤幸子 4-11 4-11 2
- 三本澄江 11-7 8-11 11-3 2
- 結城則子 15-11 7-15 15-5 2
- 村山波留美 15-11 7-15 15-5 2
- 前川加代子 6-11 9-11 0
- 渋谷茂子 11-6 11-8 2

北海道2 (1-0 1-0) 0静岡
- 栗田素娥 11-6 11-6 0
- 山本美津子 11-6 11-6 0
- 水野昌子 11-6 11-6 0
- 栗田素娥 11-7 8-11 11-3 1
- 松田優子 15-11 7-15 18-17 1
- 小松澄子 15-11 7-15 18-17 1
- 山形 1-1 1-0 1
- 香川2 (1-1 1-0) 1

▼準々決勝

香川2 (2-0 0-1) 1香川
- 三本澄江 11-2 11-4 0
- 北村寿弥子 11-2 11-4 0
- 結城則子 15-11 15-2 0
- 植野恵美子 15-11 15-2 0
- 橋本千春 11-1 11-8 0
- 石垣輝子 11-1 11-8 0
- 岡部五月 15-9 18-16 0
- 池田恵美子 15-9 18-16 0
- 山田京子 11-5 3-11 1
- 野崎知花 11-5 11-8 3-11 1
- 前田康子 15-5 18-14 0
- 谷口元美 15-5 18-14 0
- 小松澄子 11-6 11-8 0
- 渋谷茂子 11-6 11-8 0
- 岡山 1-0 1-0 0
- 石川2 (1-0 1-0) 0
- 長崎 1-0 1-0 0
- 三重2 (1-0 1-0) 0

▼準決勝

三重2 (2-0 0-1) 1香川
- 大阪2 (1-0 1-0) 0北海道
- 石川2 (1-0 1-0) 0岡山

▼三位決定戦

香川2 (2-0 0-1) 1石川
- 渋谷茂子 11-1 12-10 0
- 金崎美保 6-15 16-17 2
- 前川加代子 11-6 11-9 0
- 野崎知花 12-10 12-11 0
- 槇野いく子 11-8 12-9 8-11 1
- 谷口元美 11-15 15-12 10-15 2

▼決勝

大阪2 (1-0 1-0) 0三重
- 植野恵美子 11-0 11-1 0
- 石川好子 15-9 15-6 2
- 槇野いく子 15-9 15-6 2
- 植野恵美子 11-0 11-1 0
- 谷口元美 11-15 15-12 10-15 2
- 渋谷茂子 11-15 15-12 10-15 2
- 野崎知花 12-10 12-11 0
- 前川加代子 12-10 12-11 0

ヒーロー

成年（一般）男子優勝の

小島一平（RS元町）

〝県の名誉のために〟



息づまるようなポイント争い。白いシャトルが生き物のように動いて激しいラリーが続く。1対1から勝負のかかった第3試合。神奈川のエース、小島と東京の梅野尾はともにトマス杯代表選手。手の内を知り尽くした同士の対戦だけに、精神力がウエートを占める。

その厳しいせり合いに小島が勝った。15－9、15－8のストレート勝ち。優勝候補の東京を破り、神奈川が昨年の雪辱を遂げた。

バドミントン競技の中でも、成年男子はスピーディーな試合展開で最も人気のある種目。大会前の下馬評では梅野尾、池田と粒のそろった東京が有力とみられていた。昨年の一般男子決勝でも、このコンビが神奈川の四連勝を阻んでいる。それだけに、タイトル奪回を期す小島の意気は高かった。

第1試合のダブルスでは、同じ運動具店に勤める同僚の宮川と組んでフルセット勝ちを演じている。「実力からいったら相手が上。だけど県の名誉のためにも負けたくなかった」と汗をふきながら話す小島。

そこへ鈴木勝之監督がかけより、ガッチリと握手。鈴木監督は「東京が順当勝ちを重ねたのに対し、ウチは1回戦からせり合って勝ってきた。その差が最後にチームワークと精神力の差となって表れたんでしょう。それにしても頼もしいヤツです」と手放しの喜びようだった。

〈神奈川新聞〉

カアルトンの素晴らしい仲間たち

ギリアン・ギルクスとポール・ウェトナルは、
最近、英連邦の国際試合で、ダブルス、シングルスの
タイトルのほとんどを獲得。
二人ともラケットはカアルトンを選びました。

二人がカアルトンのラケットを
選んだとき、すでに勝負は決りました。
あなたもカアルトンのラケットで
プレーをして、感触をお確かめ下さい。



英連邦ダブルス、シングルスチャンピオン
右：ギリアン・ギルクス
英国No.1
左：ポール・ウェトナル

3.7Xフレーム(世界で唯一のステンレススチール)
大切なパワーの起点であるシャフトの少し上をフラットに仕上げてあります。この為、ストロークのホイップに抜群の弾性が生れ、パワーとスピードと絶妙のタッチを生み出しました。この3.7Xの感覚を、あなた自身でお確かめ下さい。
¥7,900

3.7フレーム(世界で唯一のステンレススチール)
3.7Xにくらべ、少し固めになっています。これは、ショットの正確さと操作性能が狙いの設計です。ラケットのTピースが弾性のトータルバランスを配分し、すばやい反応を起します。 ¥7,900

carlton

That's the name of the game.

IBF(世界バドミントン連盟)公認球
ニュートーナメント——1個¥280
インターナショナル——1個¥220

総輸入元 メトロレジャー(株)
〒101東京都千代田区外神田5-6-4 TEL(03)833-3661

昭和50年度関東学生秋季リーグ戦　10月10，11，14，15，16日

法大(男子)わずか3ポイント差で優勝

女子は日体大が5戦全勝とげる

男子1部

順位

1．法政大学　4勝1敗　23ポイント
2．中央大学　4勝1敗　20ポイント
3．日本体育大学　3勝2敗　19ポイント
4．早稲田大学　3勝2敗　18ポイント
5．日本大学　1勝4敗
6．青山学院大学　0勝5敗

大学名	法大	中大	早大	日大	日体大	青学大
法大		2－4	6－1	5－2	4－3	6－1
中大	4－2		4－3	4－3	3－4	5－2
早大	1－6	3－4		4－3	4－3	6－1
日大	2－5	3－4	3－4		3－4	5－2
日体大	3－4	4－3	3－4	4－3		5－1
青学大	1－6	2－5	1－6	2－5	1－5	

女子1部

順位

1．日本体育大学　5勝0敗
2．日本女子体育大学　4勝1敗
3．東京女子体育大学　3勝2敗
4．青山学院大学　2勝3敗
5．群馬大学　1勝4敗
6．大妻女子大学　0勝5敗

大学名	日女体	日体大	東女体	青学大	大妻大	群大
日女体		2－3	4－1	5－0	5－0	5－0
日体大	3－2		5－0	4－1	5－0	5－0
東女体	1－4	0－5		3－1	5－0	5－0
青学大	0－5	1－4	1－3		5－0	5－0
大妻大	0－5	0－5	0－5	0－5		2－3
群大	0－5	0－5	0－5	0－5	3－2	

第一日目　男子一部

法政大学　対　日本大学

1	S_1	下田	0－2	土田
2	S_2	仲尾	2－0	山本
1	D_1	中井・辻	0－2	土田・高橋
2	D_2	下田・仲尾	2－1	後藤・小山
3	D_3	米山・原	2－0	藤木・山本
3	S_3	辻	2－0	岩崎
	S_4	原	2－0	高本
		合計	5－2	

中央大学　対　日本体育大学

	S_1	山本	2－1	須藤
	S_2	西村	0－2	栗原
	D_1	山本・長谷川	2－0	舛田・岩崎
	D_2	栗・坂井	1－2	須藤・栗原
	D_3	三の宮・西村	1－2	出石・池田
	S_3	長谷川	2－1	舛田
	S_4	管	0－2	竹林
		合計	3－4	

早稲田大学　対　青山学院大学

	S_1	松口	2－0	笠野
	S_2	千葉	2－0	遠藤
	D_1	高木・渡辺	2－0	畑中・中司
	D_2	折井・松口	2－0	遠藤・下山
	D_3	茶谷・小中	2－0	笠野・村元
	S_3	折井	2－0	下山
	S_4	茶谷	0－2	村元
		合計	6－1	

第二日目　男子一部

法政大学　対　青山学院大学

	S_1	辻	2－0	下山
	S_2	仲尾	1－2	村元
	D_1	中井・辻	2－0	畑中・中司
	D_2	米山・原	2－0	遠藤・下山
	D_3	下田・仲尾	2－0	笠野・村元
	S_3	米山	2－0	遠藤
	S_4	中井	2－0	中司
		合計	6－1	

中央大学　対　日本大学

	S_1	山本	0－2	土田
	S_2	長谷川	2－0	山本
	D_1	栗・坂井	1－2	後藤・小山
	D_2	山本・長谷川	1－2	土田・高橋
	D_3	三の宮・西村	2－0	藤木・山本
	S_3	管	2－0	岩崎
	S_4	西村	2－0	高木
		合計	4－3	

早稲田大学　対　日本体育大学

	S_1	松口	2－1	竹林
	S_2	茶谷	1－2	須藤
	D_1	折井・松口	2－1	舛田・岩崎
	D_2	千葉・門脇	0－2	須藤・栗原
	D_3	高木・渡辺	2－1	出石・池田
	S_3	折井	2－0	舛田
	S_4	千葉	0－2	栗原
		合計	4－3	

第一日目　女子一部

日本女子体育大学　対　青山学院大学

	S_1	千葉	2－0	白玖
	S_2	原田	2－0	坂本
	D_1	大場・村田	2－0	松村・橋本
	D_2	千葉・松田	2－0	白玖・坂本
	S_3	近藤	2－0	高橋
		合計	5－0	

日本体育大学　対　大妻女子大学

	S_1	大塚	2－0	若海
	S_2	松田	2－0	
	D_1	大塚・関根	2－0	平野・滝沢
	D_2	高瀬・松田	2－0	若海・内坂
	S_3	日向野	2－0	平野
		合計	5－0	

東京女子体育大学　対　群馬大学

	S_1	長沢	2－0	池田
	S_2	長谷川	2－1	神山
	D_1	長沢・鷹嶋	2－0	神山・池田
	D_2	長谷川・布施	2－0	飯野・高木
	S_3	鷹嶋	2－0	飯野
		合計	5－0	

第二日目　女子二部

日本女子体育大学　対　群馬大学

	S_1	近藤	2－0	神山
	S_2	大場	2－0	池田
	D_1	近藤・渡辺	2－0	飯野・高木
	D_2	原田・小寺	2－0	神山・池田
	S_3	林	2－0	飯野
		合計	5－0	

日本体育大学　対　青山学院大学

	S_1	古谷	2－0	白玖
	S_2	西尾	2－0	稲垣
	D_1	高瀬・松田	0－2	白玖・坂本
	D_2	関根・大塚	2－0	稲垣・鈴木
	S_3	秋本	2－0	橋本
		合計	4－1	

東京女子体育大学　対　大妻女子大学

	S_1	長沢	2－0	内坂
	S_2	鷹嶋	2－1	若海
	D_1	長谷川・布施	2－0	平野・滝沢
	D_2	長沢・鷹嶋	2－0	若海・内坂
	S_3	長谷川	2－0	平野
		合計	5－0	

第三日目　男子一部

法政大学	対	日本体育大学	
S1 仲尾	0－2	須藤	
S2 辻	1－2	舛田	
D1 米山・原	2－0	須藤・栗原	
D2 下田・仲尾	2－0	出石・池田	
D3 中井・辻	2－0	舛田・岩崎	
S3 原	2－0	竹林	
S4 後藤	0－2	栗原	
合計	4－3		

中央大学	対	早稲田大学	
管	0－2	松口	
山本	2－0	千葉	
坂井・栗	0－2	折井・松口	
三の宮・西村	2－0	千葉・門脇	
山本・長谷川	2－0	高木・渡辺	
西村	0－2	折井	
長谷川	2－0	茶谷	
合計	4－3		

日本大学	対	青山学院大学	
藤木	0－2	下山	
土田	2－0	村元	
藤木・山本	2－0	畑中・中司	
土田・高橋	2－0	笠野・村元	
後藤・小山	2－0	遠藤・下山	
山本	2－0	笠野	
亀里	0－2	遠藤	
合計	5－2		

第四日目　男子一部

法政大学	対	早稲田大学	
S1 中井	2－0	千葉	
S2 仲尾	0－2	松口	
D1 中井・辻	2－0	高木・渡辺	
D2 下田・仲尾	2－0	松口・折井	
D3 米山・原	2－0	千葉・門脇	
S3 辻	2－0	茶谷	
S4 原	2－1	折井	
合計	6－1		

中央大学	対	青山学院大学	
山本	2－0	村元	
西村	2－0	遠藤	
栗・坂井	0－2	下山・村元	
山本・長谷川	2－0	畑中・中司	
三の宮・西村	0－2	笠野・遠藤	
長谷川	2－0	下山	
管	2－1	滝本	
合計	5－2		

日本大学	対	日本体育大学	
土田	2－0	栗原	
藤木	0－2	須藤	
土田・高橋	2－0	池田・出石	
藤木・山本	2－1	舛田・岩崎	
後藤・小山	0－2	須藤・栗原	
山本	0－2	舛田	
亀里	0－2	竹林	
合計	3－4		

第三日目　女子一部

日本女子体育大学	対	大妻女子大学	
S1 桝谷	2－0	内坂	
S2 原田	2－0	若海	
D1 上野・島田	2－0	滝沢・平野	
D2 後藤・鈴木	2－1	内坂・若海	
S3 山口	2－1	平野	
合計	5－0		

日本体育大学	対	東京女子体育大学	
井上	2－0	矢口	
関根	2－0	沢内	
西尾・秋本	2－0	市村・長沢	
谷・井上	2－0	矢口・沢内	
高瀬	2－0	長沢	
合計	5－0		

青山学院大学	対	群馬大学	
白玖	2－0	飯野	
稲垣	2－1	池田	
白玖・坂本	2－0	飯野・高木	
松村・橋本	2－0	池田・五十嵐	
坂本	2－0	高木	
合計	5－0		

第四日目　女子一部

日本女子体育大学	対	東京女子体育大学	
S1 近藤	2－0	矢口	
S2 千葉	2－0	沢内	
D1 大場・村田	2－0	市村・長沢	
D2 千葉・松田	0－2	矢口・沢内	
S3 原田	2－0	長沢	
合計	4－1		

日本体育大学	対	群馬大学	
		キ	
		ケ	
		ン	
合計	5－0		

青山学院大学	対	大妻女子大学	
白玖	2－0	滝沢	
坂本	2－0	内坂	
松村・橋本	2－0	滝沢・平野	
白玖・坂本	2－0	内坂・両角	
稲垣	2－0	若海	
合計	5－0		

第五日目　男子一部

	法政大学	対	中央大学
S_1	中井	0－2	菅
S_2	仲尾	0－2	山本
D_1	中井・辻	2－1	山本・長谷川
D_2	下田・仲尾	1－2	三の宮・西村
D_3	米山・原	2－1	秋葉・米山
S_3	辻	0－2	西村
S_4	原	打ち切り	長谷川
合計	2－4		

	早稲田大学	対	日本大学
S_1	茶谷	0－2	土田
S_2	松口	2－0	山本
D_1	千葉・門脇	0－2	後藤・小山
D_2	折井・松口	1－2	土田・高橋
D_3	高木・渡辺	2－1	藤木・山本
S_3	折井	2－0	亀里
S_4	千葉	2－0	藤木
合計	4－3		

	日本体育大学	対	青山学院大学
S_1	須藤	2－0	畑中
S_2	栗原	2－0	滝本
D_1	出石・池田	2－1	下山・村元
D_2	舛田・岩崎	2－0	畑中・中司
D_3	須藤・栗原	1－2	笠野・遠藤
S_3	舛田	2－1	村元
S_4	竹林	打ち切り	遠藤
合計	5－1		

第五日目　女子一部

	日本女子体育大学	対	日本体育大学
S_1	千葉	2－0	西尾
S_2	原田	0－2	古谷
D_1	近藤・渡辺	0－2	西尾・秋本
D_2	千葉・松田	2－0	谷・井上
S_3	近藤	0－2	秋本
合計	2－3		

	東京女子体育大学	対	青山学院大学
S_1	矢口	2－1	坂本
S_2	沢内	2－0	稲垣
D_1	市村・長沢	0－2	白玖・坂本
D_2	矢口・沢内	2－0	松村・橋本
S_3	長谷川	打ち切り	白玖
合計	3－1		

	大妻女子大学	対	群馬大学
S_1	若海	0－2	神山
S_2	内坂	2－0	飯野
D_1	滝沢・平野	0－2	神山・池田
D_2	内坂・若海	2－0	飯野・高木
S_3	平野	0－2	池田
合計	2－3		

秋季リーグ戦入替戦結果

〈男　子〉

1－2部	青山学院大学(残留)	4－2	慶応義塾大学(残留)
2－3部	立教大学(残留)	4－0	一橋大学(残留)
3－4部	山梨大学(降格)	0－5	東京理科大学(昇格)
4－5部	明治学院大学(降格)	2－5	国士館大学(昇格)
5－6部	独協大学(降格)	1－5	東京農工大学(昇格)
6－7部	東京電機大学Ⅰ部(降格)	2－5	武蔵大学(昇格)
7－8部	高崎経済大学(降格)	1－5	駒沢大学(昇格)
8－9部	武蔵野美術大学(残留)	5－4	横浜商科大学(残留)
9－10部	東京水産大学(降格)	4－5	東京商船大学(昇格)
10－11部	足利工大(降格)	休部	工学院大学(昇格)

〈女　子〉

1－2部	大妻女子大学(残留)	3－2	早稲田大学(残留)
2－3部	昭和女子大学(降格(	1－3	東京学芸大学(昇格)
3－4部	日本女子大学(残留)	3－2	武蔵大学(残留)
4－5部	成蹊大学(残留)	3－0	津田塾大学(残留)
5－6部	杉野女子大学(降格)	0－3	女子美術大学(昇格)
6－7部	立教大学(降格)	2－3	明星大学(昇格)
7－8部	東京農業大学(残留)	3－2	清泉女子大学(残留)
8－9部	桐朋大学(降格)	休部	大東文化大学(昇格)
9－10部	東京女子大学(降格)	0－3	立正女子大学(昇格)
10－11部	山梨大学(降格)	休部	淑徳短期大学(昇格)
11－12部	白梅学園短期大学(降格)	0－3	東海大学(昇格)

◆「ユーバー杯奪還への道」が刊行されます（詳しくは32ページを）

昭和50年度関東学生秋季リーグ戦　　10月10，11，14，15，16日

第二部は慶大(男子)と早大(女子)が優勝

名門立大ついに全敗，昭女大は三部に降格

男子2部

順位

1．慶応義塾大学　5勝0敗
2．専修大学　4勝1敗
3．大東文化大学　2勝3敗　15ポイント　得失ゲーム差－5
5．千葉大学　2勝3敗　15ポイント　得失ゲーム差－9
5．関東学院大学　2勝3敗　13ポイント
6．立教大学　0勝5敗

大学名	慶大	関学大	大東大	専大	立大	千葉大
慶大		5－1	7－0	5－2	6－1	6－1
関学大	1－5		3－4	1－6	4－3	4－3
大東大	0－7	4－3		3－4	5－2	3－4
専大	2－5	6－1	4－3		6－1	4－3
立大	1－6	3－4	2－5	1－6		3－4
千葉大	1－6	3－4	4－3	3－4	4－3	

女子2部

順位

1．早稲田大学　4勝1敗　17ポイント
2．明治学院大学　4勝1敗　15ポイント
3．国学院大学　3勝2敗　14ポイント
4．埼玉大学　3勝2敗　13ポイント
5．共立女子大学　1勝4敗
6．昭和女子大学　0勝5敗

大学名	早大	明学大	国学院	共立大	昭女大	埼玉大
早大		4－1	3－2	3－2	5－0	2－3
明学大	1－4		3－2	3－2	4－1	4－1
国学院	2－3	2－3		4－1	3－2	3－2
共立大	2－3	2－3	1－4		3－2	2－3
昭女大	0－5	1－4	2－3	2－3		1－4
埼玉大	3－2	1－4	2－3	3－2	4－1	

IMPORTED SHUTTLECOCKS

世界のNo.1から普及品まで輸入シャトルをお推めします

カーバン・トレーディング社では国際トーナメントに使用されている各国のNo.1シャトル及び幾多の名選手を生んだ普及レベルのシャトルの輸入を企画、販売しております。当社では厳選した販売店を通じてか、直接、団体やクラブや個人の皆様に販売するシステムを取っております。これは世界の秀れたシャトルが高価にならぬための当社の考え方です。あらゆるコンディションの中で、秀れた飛行性、耐久性を要求されるシャトルを専門家の目から厳選した製品です。シャトルに関しての御相談をお待ちしております。

まず、実力No.1の国、中国製シャトルを紹介します

商品ナンバー	商品名	価格（1打）	品質等
CA101	航空牌	¥ 3,000	水鳥、中国 No.1、国際試合球
CA201	東海牌(ゴールド)	¥ 2,500	水鳥、トップレベル用試合球
CA202	東海牌(シルバー)	¥ 2,000	水鳥、国内試合球

御注文は10打単位、球種の組合せ及び返品自由、代金前払、送料当社負担。

申込書

（□らんにVをつけてください）

□ カタログ　□ サンプル　□ 注文　□ 予約注文

製品名	製品番号	数量	サイズ	金額
			合計	

送金先（銀行は各久留米支店 普通預金口座）

□ 大和銀行　□ 住友銀行　□ 第一勧業銀行　□ 福岡銀行　□ 郵送現金書留　□ 請求書要

ご氏名 又は ご団体名

ご購入担当者名(団体の場合)　㊞

ご送付先住所

〒　お電話　（　）

カーバン・トレイディング・リミテッド

福岡県久留米市日吉町147番地の5

〒　TEL 0942（38）3446、（33）3454

◆第26回全日本学生選手権大会　11月4～9日　奈良市

土田(日大)ト杯代表の実力を発揮し優勝

一年生長谷川(中大)大健闘の2位―女子は徳田が単複制す

男子団体

優勝	中央大学
2位	法政大学
3位	日本体育大学
〃	日本大学
5位	青山学院大学
〃	近畿大学
〃	早稲田大学
〃	慶応義塾大学

女子団体

優勝	日本女子体育大学
2位	四条畷学園女子短期大学
3位	東京女子体育大学
〃	日本体育大学
5位	早稲田大学
〃	青山学院大学
〃	武庫川女子大学
〃	大阪樟蔭大学

男子ダブルス

優勝	中井　基夫・辻　敏弘	（法　大）
2位	下田　春樹・仲尾　信一	（〃　）
3位	折井　直則・松口　金彦	（早　大）
〃	米山　正和・原　敏夫	（法　大）
5位	大場　和弘・秋場　博	（中　大）
〃	佐野　弘・瀬良　信明	（近　大）
〃	古西　悟・谷島　助男	（〃　）
〃	土田　証雄・高橋　俊則	（日　大）

女子ダブルス

優勝	徳田　敦子・高田　幹子	（四条畷）
2位	西尾真理子・秋本八代美	（〃　）
3位	谷　美津代・井上　昌子	（日体大）
〃	近藤　小織・渡辺多喜子	（日女体大）
5位	秋本　幸子・落合　光子	（四条畷）
〃	佐伯　智子・古谷　成代	（日体大）
〃	千葉　陽子・松田　敦子	（日女体大）
〃	矢口　洋子・沢内真由美	（東女体大）

男子シングルス

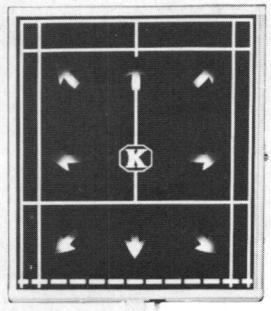
優勝	土田　証雄	（日　大）
2位	長谷川　博幸	（中　大）
3位	山本　茂樹	（〃　）
〃	西村　正美	（〃　）
5位	辻　敏弘	（法　大）
〃	原　敏夫	（〃　）
〃	竹林　良明	（日体大）
〃	米山　政和	（法　大）

女子シングルス

優勝	徳田　敦子	（四条畷）
2位	高田　幹子	（〃　）
3位	千葉　陽子	（日女体大）
〃	西尾　真理子	（日体大）
5位	佐伯　智子	（〃　）
〃	井上　昌子	（〃　）
〃	谷　美津代	（〃　）
〃	秋本　八代美	（〃　）

BADMINTON TRAINING MACHINE

バドミントン
トレーニング
マシン



プレイヤーの誰れもが求める
華麗なるフットワーク

右に左にとシャトルを追うそのフットワーク。このバドミントントレーニングマシンは、プレイヤーの反射神経を高め、敏捷性を養うために造られたフットワーク練習機です。明日への試合のために各有名スポーツ店にてお求めください。



カワサキラケット

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5　TEL(03)831-9161(代)

実案・意匠申請　¥29,000





SunBatta

BADMINTON RACKET

S-75

Rush

サンバタ

◆昭和50年度関東学生選手権新人戦　11.21～12.9

中央大(男子),日本女子体育大(女子)それぞれ優勝——男女とも，連日白熱の大接戦を展開

西村・長谷川二人で優勝へ中大をひっぱる

——日女体大、近藤が活躍

◆男子団体戦

▼準決勝

中央大学 3 — 2 法政大学
D 1—1 西村 2 — 15 15 山本 0
S 2—0 長谷川 2 — 15 8 15 7 仲尾 1
中央大学 3 — 2 法政大学

米坂山井 0 — 2 西村 2
14 12 15 — 18 15 — 12 15 3
2 佐藤 仲尾 1 — 0 井上

長谷川 2 — 1 日本大学
15 15 — 12 5 — 鈴木 0
D 1—1 西村 2 — 15 15 — 1 山本 0
S 2—0 長谷川 2 — 15 10 — 5 亀里 0
日本大学 3 — 0 亀里

日本大学 3 — 2 日体大
D 1—1 長谷川 2 — 15 15 — 12 5 鈴木 0
S 2—1 西村 2 — 15 15 — 5 井上 0
日本大学 3 — 2 日体大

亀里 2 — 0 杉本
15 18 — 8 14
高山橋本 2 — 1 岩崎工藤
15 15 16 — 10 9 18
亀里黒沼 0 — 2 杉本金崎
13 16 — 18 17
岩崎 0 — 2 岩崎
4 13 — 15 15
山本 2 — 0 工藤
17 15 — 15 11

▼決勝

中央大学 3 — 1 日本大学
D 1—1 亀里 2 — 15 18 — 8 14 0 杉本
S 2—0 高山橋本 2 — 15 15 16 — 10 9 18 1 岩崎工藤
中央大学 3 — 1 日本大学

◆女子団体戦

▼準決勝

日女体大A 3 — 0 日体大B
D 1—0 近藤 2 — 12 7 11 — 11 5 関根 1
S 2—0 原田 2 — 11 11 — 8 0 大塚
日女体大A 3 — 0 日体大B

日体大A 3 — 2 日女体大B
D 1—1 近藤 2 — 15 4 0 宮野 平野
S 2—1 渡辺 2 — 15 15 — 4 0 宮野 平野
日体大A 3 — 2 日女体大B

石井 1 — 2 後藤
8 11 — 11 2
石井 1 — 2 後藤
11 11 — 3 4
佐円 1 — 2 後藤
12 16 18 — 15 4

▼決勝

日女体大A 3 — 1 日体大A
D 1—1 石田向野 2 — 15 15 — 11 12 0 根本吉
S 2—0 佐円 2 — 11 12 — 4 10 0 鈴木
日女体大A 3 — 1 日体大A

原田 2 — 0 井上
11 11 — 2 5
石田向野 2 — 0 根本吉
15 15 — 11 12
佐円 2 — 0 鈴木
11 12 — 4 10

近藤 2 — 0 佐円
11 11 — 0 2
小原寺田 1 — 2 日井山上
10 15 11 — 15 3 15
島上田野 2 — 0 佐石円井
15 15 — 2 6

長谷川、先輩西村に勝つ

法大・仲尾・佐藤組はダブルスで一矢

◆男子シングルス

▼準々決勝

西村(中) 2 — 1 宮崎(慶)
15 11 15 — 5 15 11
岩崎(日体) 3 — 0 茶谷(早)
18 15 — 13 10
伊東(日) 2 — 0 山本(日)
17 15 — 14 7
長谷川(中) 2 — 1 仲尾(法)
15 15 13 — 9 3 15

▼準決勝

西村 2 — 0 岩崎
15 15 — 4 5
長谷川 2 — 0 伊東
15 15 — 2 13

▼決勝

長谷川 2 — 0 西村
15 15 — 9 8

■戦評

お互いに手の内を知り尽くしている同士、気合いの入った好試合を展開し第一ゲームは進み西村はネットプレーに冴えをみせ、長谷川を振り回し強打を防いだが、8オールでのスマッシュエースは長谷川を一気に波に乗せて、そのまま押し切った。

第二ゲームに入っても長谷川は波をつかんだまま6点を先取一方、西村も意地をみせ粘りミスにも乗じ9オールとし、この試合最大の山場を迎え、両者は強打を応酬し相譲らなかったが、結局、強打に優る長谷川が第一

ゲーム終盤同様、一気に連取し優勝を飾った。（学連・村元）

◆男子ダブルス

▼準々決勝

小茶谷（早）	中2	15-15-7	4-4-4	15-15-1	杉本金崎（日体）
坂井米山（中）	2	17-17-16	15-15-4	15-16-0	後藤高橋（日）
西村長谷川（中）	2	15-15-6	15-15-9	0-0	山本三浦（日）
仲尾佐藤（法）	2	15-15-9	15-15-10	0-0	菅船本（中）

▼準決勝

坂井米・山	2	15-15-8	15-15-5	0-0	小中茶谷
仲尾佐藤	2	15-15-5	17-16-16	0-0	西村長谷川

▼決勝

仲尾佐藤	2	17-15-14	15-5-15	0-0	坂井米山

■戦評

第一ゲーム、坂井、米山組は簡単なミスが目立ち、相手に楽にポイントを許し、自分達本来の力を出し切れずに終ってしまった。これに対して仲尾・佐藤組は、余裕ある試合運びで、第一ゲームを終了した。続く第二ゲームは、ミスが目立つ坂井・米山組は、前半10-5と軽くリードされたものの、米山のスマッシュと相手のミスで後半、12-14とリードした。しかし仲尾のスマッシュがよくきまり、14-14とし、セッティングも3-0と軽く仲尾・佐藤組が取った。（学連・三浦）

近藤、単複を制す
大塚・関根、沢内も健闘

◆女子シングルス

▼準々決勝

井上（日体）	2	11-11-11	3-13-1	11-3	大塚（日体）
原田（日女体）	2	11-11-キケン	3-3	0	渡辺（日女体）
近藤（日女体）	2	11-11-3	2-3	0	小寺（日女体）
沢内（東女体）	2	11-11-5	7-7-11	8-11	上野（日女体）

▼準決勝

原田	2	11-11-4	7-7	0-0	井上
近藤	2	11-11-2	2-2	0-0	沢内

▼決勝

近藤	2	11-11-2	2-2	0-0	原田

■戦評

第一ゲーム、昨年度準優勝の井上（日体大）を破り、決勝進出を果たした新星原田が、先輩近藤に対してどこまで粘るかがこのゲームの見どころであった。しかし近藤は、原田をコート全面にふり回してゲームポイントを握った。

第二ゲーム、バックヘクリヤーで攻めた後、クロスカットをきれいに決めてポイントを取るという近藤のペースでこのゲームも進んだ、原田も近藤をよく動かしたが、2ポイントあげるのがやっとであった。（学連・根本）

◆女子ダブルス

▼準々決勝

近藤渡辺（日女）	2	15-15-11	15-6	0-0	石井佐円（日体）
原田小寺（日女）	2	15-15-5	15-10	0-0	石田日向野（日体）
大塚関根（日体）	2	15-7-15	15-4	0-0	上野島田（日女）
井上日山（日体）	2	15-15-1	1-1	0-0	後藤鈴木（日女）

▼準決勝

近藤渡辺	2	15-15-7	15-10	0-0	原田小寺
大塚関根	2	15-15-9	15-11	0-0	井上日山

▼決勝

近藤渡辺	2	15-15-8	15-5	0-0	大塚関根

■戦評

第一ゲーム、昨年度優勝の近藤・渡辺組が、出足順調にスタートしたが、良くくいついてレシーブしてくる大塚・関根組に、手を焼いた。しかし、そのレシーブも前衛の渡辺にカットされ点差がますます大きいものとなり、結局、点につながらないまま、近藤・渡辺組があっけなく第一ゲームをものとした。続く第二ゲーム、前半、近藤・渡辺に乱れが生じ7-1とリードを許した。しかし四スミにきれいにドライブが決まり、安定した力を出してきた近藤・渡辺に、関根・大塚は、苦杯を飲まされた。（学連・根本）

◆◆Bブロック◆◆
慶応大学、埼玉大学が接戦の末栄冠
佐久間は単複制覇
加藤・渡辺みごと優勝

◆Bブロック男子団体戦決勝

慶応大学	3	D1-1	S2-1	2	一橋大学
森下堀井	1	4-15	6-15	15-9	2	渡辺萩原
森下堀井	2	15-3	15-7	0	梅原八森
萩原	2	15-10	15-7	0	笠松

森下萩原	2	15-9	15-6	13-15	1	梅原星
八森堀井	0	3-15	0-15	2	渡辺笠松



昭和50年度関東学生選手権大会新人戦ランキング（個人戦）

Aブロック

男子シングルス

1位	長谷川博幸	(中　大)
2位	西村　正美	(中　大)
3位	岩崎　盛和	(日体大)
3位	伊東　勝之	(日　大)
5位	仲尾　信一	(法　大)
5位	宮崎　克己	(慶　大)
5位	茶谷　正美	(早　大)
5位	山本　秀樹	(日　大)

男子ダブルス

1位	仲尾　信一 佐藤　重好	(法　大)
2位	坂井　孝 米山　孝二	(中　大)
3位	小中　正道 茶谷　正美	(早　大)
3位	西村　正美 長谷川博幸	(中　大)
5位	山本　秀樹 三浦　誠	(日　大)
5位	杉本　重幸 金崎　孝一	(日体大)
5位	後藤　武信 高橋　俊則	(日　大)
5位	管　敏明 船本　圭樹	(中　大)

Aブロック

女子シングルス

1位	近藤　小織	(日女体大)
2位	原田美智子	(日女体大)
3位	井上　昌子	(日体大)
3位	沢内真由美	(東女体大)
5位	上野　早苗	(日女体大)
5位	渡辺多喜子	(日女体大)
5位	大塚ソノエ	(日体大)
5位	小寺　裕美	(日女体大)

女子ダブルス

1位	近藤　小織 渡辺多喜子	(日女体大)
2位	大塚ソノエ 関根　和子	(日体大)
3位	井上　昌子 日山　裕子	(日体大)
3位	原田美智子 小寺　裕美	(日女体大)
5位	上野　早苗 島田　秀子	(日女体大)
5位	後藤　早苗 鈴木　里美	(日女体大)
5位	石井由美子 佐円　伸江	(日体大)
5位	石田　尚子 日向野藤江	(日体大)

Bブロック

男子シングルス

1位	森下　一夫	(慶　大)
2位	赤坂　正弘	(城西大)
3位	渡辺　優	(横国大)
3位	梅原　正光	(一橋大)
5位	加藤　岳	(横国大)
5位	大矢　降治	(都立大)
5位	栗原　徳弥	(明学大)
5位	清水　正紀	(東洋大)

男子ダブルス

1位	加藤　岳 渡辺　優	(横国大)
2位	松原　昭美 村松　晴彦	(東農大)
3位	吉田　英昭 石黒　弘治	(神　大)
3位	飯田　和隆 松岡　博文	(日体大)
5位	竹内　尚志 大森　信一	(東洋大)
5位	熊谷　芳美 高橋　清治	(日体大)
5位	栗原　徳弥 中山　敏昭	(明学大)
5位	佐藤　敏行 大本　和志	(東理大)

Bブロック

女子シングルス

1位	佐久間恭子	(日体大)
2位	村橋　良子	(埼玉大)
3位	金城あつ子	(玉川大)
3位	栗山由美子	(日体大)
5位	梅沢　美樹	(日体大)
5位	内藤真佐美	(駒　大)
5位	五味　勝美	(日女体大)
5位	笹川美智恵	(東学大)

女子ダブルス

1位	猪狩　千鶴 佐久間恭子	(日体大)
2位	梅沢　美樹 栗山由美子	(日体大)
3位	笹川美智恵 塩沢　幸子	(東学大)
3位	川村　泰子 白鳥　定子	(日体大)
5位	平田　正江 梶ヶ谷芳子	(大東大)
5位	山賀　美子 米持　芳美	(立正大)
5位	角田真由美 林　孝枝	(青短大)
5位	小林　伸江 粕谷　法子	(お茶大)

◆第22回東北学生バドミントンリーグ戦
第22回東北学生バドミントン選手権大会　　12.12～16

三浦（東北学院）が全種目制覇，女子は宮城学院

═══ 佐藤友美（山形短大）シングルス制す ═══

〈女子リーグ戦〉

1部　1．宮城学院大学，2．宮城教育大学，3．山形女子短期大学，4．山形大学。入替戦の結果，山形大学1部残留，東北福祉大学2部残留。

2部　1．東北福祉大学，2．弘前大学，3．福島大学，4．東北女子短期大学（休部）。東北女子短期大学3部降格，郡山女子大学2部昇格。

3部　1．郡山女子大学，2．今津短期大学，3．秋田大学，4．東北大学，5．三島学園女子大学，7．岩手大学（休部），7．米沢女子短期大学（休部）。

〈男子リーグ戦〉

1部　1．東北学院大学，2．東北大学，3．山形大学，4．岩手大学。入替戦の結果，岩手大学一部残留，弘前大学2部残留。

2部　1．弘前大学，2．福島大学，3．東北工業大学，4．日大工学部。入替戦の結果，日大工学部3部降格，仙台大学2部昇格。

3部　1．仙台大学，2．秋田経済大学，3．秋田大学，4．宮城教育大学，5．東北福祉大学。

個人戦大会ランキング

〈男子シングルス〉

1位　三浦　一則（東北学院大学）
2位　大山　信彦（東北学院大学）
3位　大川　信昌（東北学院大学）
3位　古川　靖弘（東北学院大学）
5位　諏訪内　信二（仙台大学）
5位　伊藤　雅博（東北学院大学）
5位　渡辺　由夫（東北学院大学）
5位　永田　俊昭（東北学院大学）

〈男子ダブルス〉

1位　三浦　一則・大山　信彦（東北学院大学）
2位　森　裕志・小原　剛（東北学院大学）
3位　渋谷　周治・大川　信昌（東北学院大学）
3位　伊藤　雅博・渡辺　由夫（東北学院大学）
5位　山崎　洋・今野　孝（東北大学）
5位　諏訪内信二・佐々木忠紀（仙台大学）
5位　古川　靖弘・永田　俊昭（東北学院大学）
5位　二本柳　剛・黒沢　克彦（山形大学）

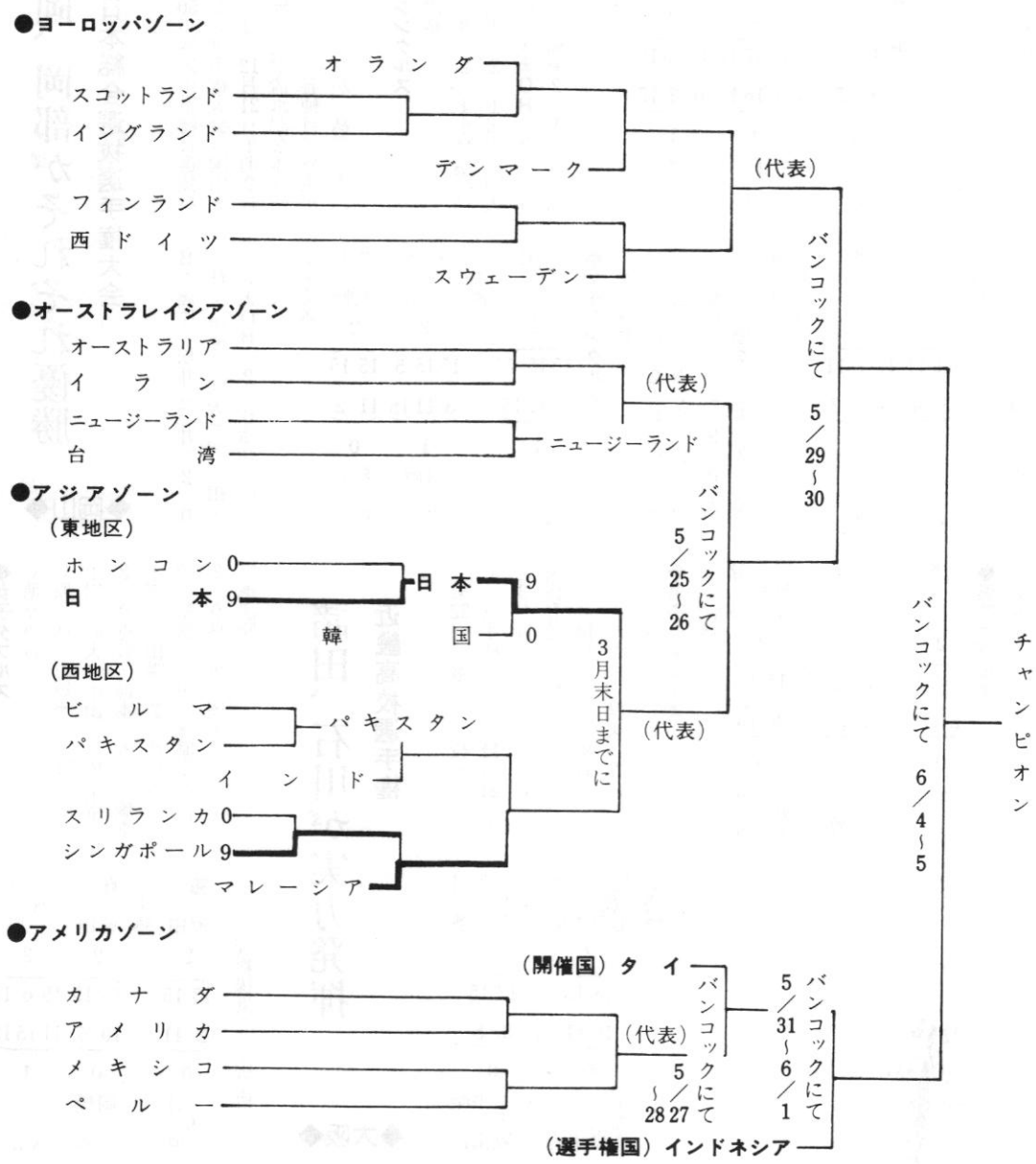
〈女子シングルス〉

1位　佐藤　友美（山形短期大学）
2位　佐藤　恭子（東北学院大学）
3位　加藤　ちはる（宮城学院大学）
3位　煤賀　牧子（東北福祉大学）
5位　山岸　みち子（宮城教育大学）
5位　佐藤　香代子（宮城教育大学）
5位　佐藤　美和子（宮城学院大学）
5位　中島　幸代（宮城教育大学）

〈女子ダブルス〉

1位　加藤ちはる・佐藤美和子（宮城学院大学）
2位　佐藤　友美・三沢みどり（山形短期大学）
3位　斎藤　正子・小圷　敏子（東北福祉大学）
3位　林　真知子・柏倉賀津子（山形大学）
5位　山岸みち子・佐藤香代子（宮城教育大学）
5位　柏崎とし子・竹内富士子（弘前大学）
5位　中島島幸代・斎藤　暁美（宮城教育大学）
5位　高山　直美・煤賀　牧子（東北福祉大学）

第10回世界バドミントン選手権（トマス杯）大会組合せ



トマス杯大会・栄光のあと

回・年	参加国	チャンピオン国	回・年	参加国	チャンピオン国
第1回・1948～49	10	マラヤ	第6回・1963～64	26	インドネシア
第2回・1951～52	12	マラヤ	第7回・1966～67	23	マレーシア
第3回・1954～55	21	マラヤ	第8回・1969～70	25	インドネシア
第4回・1957～58	19	インドネシア	第9回・1972～73	23	インドネシア
第5回・1960～61	19	インドネシア	第10回・1975～76	26	?

岡、岡部がそれぞれ優勝

日本総合選抜選手権大会

◆岡山◆

昭和50年度岡山県総合選抜バドミントン選手権大会（岡山大学招待）は、12月21日午前9時から、岡山大学清水記念体育館で開催された。各種目で熱戦がくり広げられたが、結果は次のとおり。

◆男子シングルス

▽準々決勝

芳上（三井）2－1小林（岡大）
名智（岡大）2－1田中（岡大OB）
岡（岡大OB）2－0片岡（倉工）
藤原2－1浜中（岡大）

▽準決勝

芳上	2	15－2	12－15	
		15－0	15－2	1 名智
岡	2	15－4	17－16	11－15
				1 藤原

▽決勝

岡	2	15－6	15－7
			0 芳上

◆男子ダブルス

▽準々決勝

上野・芳上（三井）2－1藤原・平田（倉工）
浜中・名智（岡大）2－0山崎・片山（岡大OB）
藤原・松井（三井）2－0小林・田原（岡大）
岡・田中（岡大OB）2－0諏訪・徳丸（岡大）

▽準決勝

上野	2	15－2		
芳上		15－11		0 名智 浜中
藤原	2	15－5	11－15	
松井		15－11		1 田中 岡

▽決勝

藤原	2	7－15		
松井		15－12		1 芳上 上野

◆女子シングルス

▽準々決勝

貝原（山陽）2－0三田（クラレ）
岡部（山陽）2－0林（岡大）
藤原（クラレ）2－0小山（山陽）
橋本（山陽）2－0守屋（中央）

▽準決勝

藤原	2	11－4		
		11－8		0 橋本
岡部	2	11－3		
		11－7	11－7	1 貝原

▽決勝

岡部	2	11－7	12－10	
				0 藤原

◆女子ダブルス

▽準々決勝

日原・林（山短）2－0高鳥・土岩（岡大）
小山・貝原（山陽）2－0近藤・河本（瀬戸）
橋本・岡部（山陽）2－0松本・大源（翠松）
三田・藤原（クラレ）2－0林・東（岡大）

▽準決勝

日林	2	15－6	15－12	
		15－11	15－11	1 貝原 小山
三田	2	15－5		
藤原		15－10		0 岡部 橋本

▽決勝

三田	2	15－11		
藤原		15－2		0 林 日原

〈資料提供＝岡山県協会〉

諸田、石川が実力発揮

近畿高校選手権

◆大阪◆

第22回近畿高等学校バドミントン選手権大会は、11月21日から3日間にわたって、大阪市中央体育館を会場にくり広げられた。各種目において熱戦がくり広げられたが、結果は左記のとおりであった。

◆男子シングルス

▽準決勝

諸多（奈良一条高）	2	15－13		
		15－6		0 北橋（滋賀比叡山）
小浜（奈良一条高）	2	15－5		
		15－7	12－15	1 山岡（滋賀比叡山）

▽決勝

諸多	2	15－7		
		15－2		0 小浜

◆男子ダブルス

▽準決勝

西川（奈良一条高）	2	15－8		
		12－2		0 平山（大阪花園） 柴
北橋・山本（滋賀比叡山）	2	15－11		
		15－11		1 小森・上田（奈良正強高）

▽決勝

諸多	2	18－16	15－11	
				0 柴田 石川

■評■第22回近畿高等学校バドミントン選手権大会は11月21日港高校においての開会式、ついで22、23日と市立中央体育館で近畿の精鋭を集めて行われたが成績は右のとおりである。男子では奈良一条の諸多の活躍が目立ち、女子では四条畷学園の石川の健闘が注目を引いた。

（資料提供＝青木昭二日本協会常務理事）

◆女子シングルス

▽準決勝

北山	2	15－11	15－13	13－18
				1 諸多 西川
柴田（滋賀女）	2	11－8		
		11－8		0 河村（大阪四条畷）
石川（大阪四条畷）	2	11－0	11－7	
				0 平（大阪四条畷）

▽決勝

北山	2	11－4	12－10	
				0 柴田



中京大が3回連続6度目

名古屋市民大会も開催

◆名古屋◆

東海大学バドミントン選手権大会は12月15日から18日までの4日間、名古屋市体育館で行われた。

男子は、中京大が3回連続6度目の優勝、女子は、東海女子短大が6回連続7度目の優勝を飾った。

男子は第3日まで共に無失点で勝ち進んだ中京大と名城大が最終日に激突し、選手層にまさる中京大が5－4で勝利を飾った。

女子は、圧倒的な強さをみせ、各校を破った東海女子短大が5試合とも全部ストレート勝ちで楽勝した。

また、第20回名古屋市民バドミントン選手権大会は、名古屋市体育館で12月21日に開催されたが、結果は次のとおり。

◆男子ダブルス

▽準決勝

松沢・沢田（三菱重工）　2　（15－15　15－4　15－2）　0　水谷・黒田（名城大）

加藤・菱田（名鉄）　2　（15－15　15－13　17－18　12－1）　1　加野・加藤村（桜クラブ）

▽三位決定戦

水谷・黒田　2　（15－15　15－12　12－0）　0　加野・加藤村

▽決勝

加藤・菱田　2　（15－15　15－12　8－0）　0　松沢・波田

◆女子ダブルス

▽準決勝

西山・渡辺（桜クラブ）　2　（15－15　6－10　0）　0　小角・小原（名鉄）

宝刀・迫田（名鉄）　2　（15－15　11－11　0）　0　渡部・横田（名鉄）

▽三位決定戦

渡部・横井　2　（15－15　15－6　8－0）　0　小角・小原

▽決勝

西山・渡辺　2　（18－15　16－8　0）　0　宝刀・迫田

（資料提供＝名古屋市緑区・蔭山日出男様）

春一番！

もうすっかりおなじみの
第7回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

と　き：1976年3月5日（金）午後3時から
ところ：東京代々木国立競技場第2体育館
出場予定選手：日本バドミントン協会主催各大会
優勝者およびそれに準ずる選手

〈期日が変更になりました，ご注意ください〉

主催　日本バドミントン協会
後援　東京12チャンネル

昭和50年度日本バドミントン協会検定審査用具一覧表

（単位　円）

銘柄名		価格	会社名
検定合格			
シャトル・水鳥の部			
トーナメント・デラックス	1打	3,700	ヨネックス・スポーツ㈱
トーナメント	1打	3,200	〃
オフィシャル	1打	2,900	〃
エリートエース	1打	2,900	河崎ラケット工業㈱
エリートトップ	1打	3,200	〃
エリートデラックス	1打	3,700	〃
サンバタスター	1打	3,800	㈱諸江製作所
サンバタキング	1打	3,200	〃
サンバタクイーン	1打	2,900	〃
トーナメントブルー	1打	3,000	㈱トヨダスポーツ
トーナメントホワイト	1打	3,200	〃
トーナメントブラック	1打	2,750	〃
ファーストシルバー	1打	2,800	有限会社ジャワ商会
ファーストグリーン	1打	2,600	〃
ファーストゴールド	1打	3,000	〃
サンワ印ハイレッド	1打	2,400	㈱三和
ゴールド	1打	2,900	㈱ゴーセン
シルバー	1打	2,700	〃
ハタチビクトリー	1打	3,600	羽立工業㈱
シャトル・陸鳥の部			
トレーニングコック	1打	1,800	ヨネックス・スポーツ㈱
サンバタ	1打	1,800	㈱諸江製作所
ネットの部			
No.48　TR		4,600	ミセキネット製作所
No.52　A		3,800	〃
No.501　SVA		4,600	〃
KT－518		4,400	㈱寺西喜商店
綿20 1S/12本 テトロン防縮ロープ使用		4,300	㈱ジィティオ
ナイロン210 D/12本	〃	4,500	〃
綿20 1S/12本 ビニロンロープ使用		3,900	〃
ナイロンA（ナイロンラッセル15本）		4,700	鐘屋産業㈱
ナイロンB（ナイロン12本）		4,300	〃
倉敷ビニロン　20/12本		3,800	松本製網㈱
ポストの部			
T座式スチールポール		22,000	ヨネックス・スポーツ㈱
バドミントン支柱ホール式		10,000	㈱小川長春館
バドミントン支柱T座式		18,000	〃

銘柄名		価格	会社名
ファインストローク	（初級用）	2,200	河崎ラケット工業㈱
ウィニングコース	（選手用）	2,000	〃
スタミナ	（〃）	3,000	〃
スタミナデラックス	（〃）	3,500	〃
ブルーリース	（〃）	4,000	〃
オールマン	（〃）	4,500	〃
エリート	（〃）	5,000	〃
No.2000ニューブラック	（初級用）	2,500	㈱トヨダスポーツ
No.1000ニューミニ	（〃）	2,000	〃
No.8 ウィンナー	（〃）	1,500	〃
No.7 シルバー	（〃）	1,200	〃
ハイトーマス	（選手用）	4,000	㈱ゴーセン
エクセレント	（〃）	4,200	〃
ルバードII	（〃）	4,500	〃
ルバードIII	（〃）	4,500	〃
スワニー	（〃）	4,500	〃
ウエアの部			
140 クールネック		1,800	ヨネックス・スポーツ㈱
141 男子シャツ		2,000	〃
142 男子シャツライン入り		2,200	〃
144 男子シャツエリカラー		3,200	〃
241 女子シャツ		2,000	〃
242 女子シャツライン入り		2,200	〃
243 女子シャツノースリーブ		1,900	〃
120 ショートパンツ		2,800	〃
121	〃	2,400	〃
122	〃	2,100	〃
200 巻きスカート		2,600	〃
201 フレアスカート		1,900	〃
202 プリーツスカート		2,200	〃
172 セーター		5,500	〃
176 ベスト		4,500	〃
214 ワンピース		5,500	〃
820 男子ショートパンツ		3,300	〃
920 女子ショートパンツ		2,500	〃
940 女子ワンピース		6,500	〃
950 プルオーバー		6,000	〃
960 女子スカート		3,800	〃
テッドティンリンショートパンツ		3,300	河崎ラケット工業㈱
	〃	3,700	〃
テッドティンリン半袖シャツ		3,500	〃
デフィショートパンツ		2,500	〃

ＤＧ10バドミントン支柱（Ｓ型）	13,500	セ　ノ　ー　㈱	デフィ半袖シャツ	2,900	〃
ＤＧ20　〃　（移動型）	24,000	〃	〃	2,100	〃
バドミントンポスト	10,000	㈱都村製作所	リースショートパンツ	2,100	〃
バドミントンポスト（Ｔ字型）	10,000	〃	〃	3,400	〃
ラインテープの部			リースフレアスコート	2,500	〃
			リースプリーツスコート	2,000	〃
415 コートテープ	2,300	ヨネックス・スポーツ㈱	リース巻スコート	2,500	〃
カワサキラインテープ	2,000	河崎ラケット工業㈱	リース半袖イタリアンネックシャツ	2,000	〃
ＤＫ91ラインテープバドミントン用	2,000	セ　ノ　ー　㈱	リース半袖Ｖ衿シャツ	2,300	〃
赤Ｍラインテープ	1,800	昭和ゴム㈱	リース半袖シャツ	1,500	〃
			〃	2,000	〃
審　査　合　格			リーススリーブレス	1,900	〃
			〃	1,800	〃
合成シャトルの部			リース長袖シャツ	2,000	〃
ナッシュ　1個	200	㈱諸江製作所	リース半袖シャツ	2,100	〃
メイビス　1打	2,400	ヨネックス・スポーツ㈱	Ｌ－1206 ラコステ紳士ポロシャツ	4,300	三共生興㈱
カワサキ・リーブ（合成シャトル）	2,700	河崎ラケット工業㈱	Ｊ－5093 ラコステ巻スコート	4,500	〃
ハタチハネエース　1打	2,700	羽立工業㈱	Ｊ－5020 ラコステプリーツスコート	4,500	〃
			Ｊ－5411 ラコステワンピース	5,800	〃
ラケットの部			Ｌ－1514 ラコステ婦人ポロシャツ	3,500	〃
9100 スリムステンレス	5,300	ヨネックス・スポーツ㈱	Ｌ－2230 ラコステ紳士シャツ	4,800	〃
9000 ハイステンレス	4,800	〃	Ｊ－2006 ラコステショートパンツ	3,200	〃
8100 ブラッキー	5,500	〃	Ｌ－1268 ラコステ紳士ハイネック	3,800	〃
8000 アルミナハイパワー	5,000	〃	Ｌ－1212 ラコステ紳士ポロシャツ	3,800	〃
7000 アルミナエース	5,000	〃	Ｌ－6100 ラコステベスト	6,800	〃
6500 トップエース	4,300	〃			
6000 ファイブエースデラックス	4,500	〃	**シューズの部**		
3000 カレッジエイト	3,000	〃	No.335 バドミントンシューズ	2,400	ヨネックス・スポーツ㈱
2000 キングダイヤ	2,500	〃	No.336　〃	2,500	〃
1000 クインハート	2,200	〃	カワサキバドミントンシューズ	2,500	河崎ラケット工業㈱
900Ｇ スリーエース（No.10Ｇ）	2,300	〃			
800Ｇ スリーエイト（No.8Ｇ）	1,900	〃	**ストリングスの部**		
700Ｇ ラッキーセブン	1,500	〃	ロンシープ	300	河崎ラケット工業㈱
Ｓ－74 オールアタック	5,500	㈱諸江製作所	コンカー	400	〃
Ｓ－73 オールマイティ	4,500	〃	アカツキナイロン	200	〃
No.3500 キングメイト	4,300	〃	No.100 レオーネシープ	400	㈱諸江製作所
No.3000 ゴールドキング	3,800	〃	No.20　サンシープ	300	〃
No.2500 キングアロー	3,000	〃	600 ヨネックスシープ	350	ヨネックス・スポーツ㈱
No.2000 キングクリッパー	2,500	〃	610 ヨネックスシープＤＸ	400	〃
No.1000 シルバーデラックス	2,200	〃	ハイオーシープ（青スパイラル）	500	㈱ゴーセン
No.900　スナップ	2,000	〃	〃　（アンバー）	500	〃
No.800　ダンディ	1,700	〃	〃　（青スパイラル）	400	〃
No.7　ティピカル	1,400	〃	〃　（ピンクスパイラル）	400	〃
ハードショット　（初級用）	1,600	河崎ラケット工業㈱	ハイシープ	350	〃
エバーウィン　（　〃　）	1,900	〃			

（諸般の事情により定価の改訂が行われている場合がありますのでご了承ください）

1975年度の記録

第3回全日本実業団×全日本学生対抗団体戦
4・13 東京駒沢体育館

実業団強し！
電電東京が高岡市役所を逆転

この大会は、実業団と学生の各ベスト4が対決、トーナメントで日本一を決めるもの。男子は実業団が強く、準決勝に残った学生は法大だけ。決勝は、第一回優勝の電電東京と、前年の勝者・高岡市役所が顔を合わせたが、電電東京はシングルスに3勝して逆転、3―2で王座を手にした。

女子は第一人者がユーバー杯合宿で欠場したこともあり、日女体大が勝ち進んだすえ、ライバル日体大を破って優勝した。

◆男子

▽一回戦

電電東京 3―2 日本大学
法政大学 3―2 スワロー化研
高岡市役所 3―2 日本体育大学
電電北海道 3―2 中央大学

▽準決勝

電電東京 3―0 法政大学
高岡市役所 3―0 電電北海道

▽決勝

電電東京	3	D 0―2 S 3―0	2	高岡市役所
鈴木	6―15			河村
尾崎	0			今泉
8―15	2			2
田所	15―6			関野
浜谷	1			牧村
14―18	10―15			2
尾崎	8―15			今泉
2				1
田所	15―6			米沢
15―11				0
浜谷	18―13			米原
2				0
15―7				

◆女子

▽一回戦

日体大 4―1 北辰電機
電電東京 3―2 東女体大
日女体大 4―1 ヨネックス
青学大 5―0 河崎ラケット

▽準決勝

日体大 3―2 電電東京
日女体大 3―0 青学大

▽決勝

日女体大	3	D 1―1 S 2―0	1	日体大
近藤	9―15			井上
渡辺	2			谷
18―5	15―11			1
千葉	9―15			日山
松田	1			佐伯
5―15	15―15			2
千葉	11―5			佐伯
2				0
12―11				
松田	11―4			日山
2				0
11―1				

中国のIBF加盟ならず

7・1 ロンドン

国際バドミントン連盟（IBF）は7月1日、ロンドンで総会を開き、同連盟への中国加盟問題を取り上げたが、同連盟からの台湾追放を条件とした中国の加盟申請については、スチュワート・ワイヤット同連盟会長が、連盟規則に反しているとの理由で却下した。

ついで、台湾の脱退を求めるスウェーデン案を討議、表決した結果、賛成四九票、反対二五票で、賛成が必要な四分の三の多数に達しなかったため否決された。

シールIBF主事の話「中国と台湾の問題について長時間にわたり、冷静な討議を重ねた。全員が中国の加盟を望んではいるが、中国側が提案している条件での加盟については異論がある」

なお、IBFは73年7月の総会でも「台湾追放、中国加盟」を求めた日本、パキスタン、スリランカ三国共同提案を、反対多数で否決している。

第25回全日本実業団バドミントン選手権
7・1～10 富山県高岡市

高岡市役所と河崎ラケットが優勝

男子単・女子単複・混合複も
河崎ラケット勢に栄冠
男子複は梅野尾・飯野のヨネックス

◆男子団体

▽準決勝

電電東京（東京） 3―0 トヨタ自工（愛知）
高岡市役所（富山） 3―1 電電北海道（北海道）

▽決勝

高岡市役所	3	D 2―0 S 1―1	1	電電東京
関野	2			池田
牧野	15―4			尾崎
17―16	0			池田
河村	15―3			浜谷
今泉	2			田所
15―3	15―6			0
牧野	0			尾崎
キケン	9―15			2
今泉	2			池田
15―3	15―2			0

◆女子団体

▽準決勝

河崎ラケット（東京） 3―1 ヨネックスポーツ（東京）
電電東京（東京） 3―0 旭光学益子（栃木）

▽決勝

河崎ラケット	3	D 1―1 S 2―0	1	電電東京
湯木	15―9			清水
池田	2			原
15―7	0			福
柴山	5―15			石崎
宇都	0			今田
12―15	2			
湯木	11―1			菅原
2				0
11―0				
柴山	2―11			石崎
2	1			
11―3	12―10			

◆40歳以上シングルス

◆男子シングルス

▽準決勝
浜中 2-0 小林（三菱電機神戸）
（丸善松山）
山田（新日鉄中研） 2-0 中島（大村市役所）

▽決勝
山田 2（15-11 15-12 15-14）1 浜中

◆混合ダブルス決勝
平井 柴山 2（15-12 4-15 15-5）1 飯野 相沢（ヨネックス）
（河崎）

◆30歳以上シングルス決勝
鈴木（三菱重工横浜） 2（16-18 15-7 キケン）1 渡辺（横浜市役所）

◆女子シングルス

▽準々決勝
湯木（河崎） 2-0 石原（琴平電鉄）
竹中（ヨネックス） 2-1 池田（河崎）
相沢（ヨネックス） 2-1 沼能（旭光学）
石崎（電電東京） 2-1 柴山（河崎）

▽準決勝
湯木 2（11-4 11-6）0 相沢
石崎 2（11-6 11-6）0 竹中

▽決勝
湯木 2（5-11 11-7 11-0）1 石崎

▽準決勝
本間（トヨタ自工） 2（15-3 15-7）0 池田（電電東京）
銭谷（河崎） 2（17-16 15-10）0 梅野尾（ヨネックス）

▽決勝
銭谷 2（15-10 15-10）0 本間

◆男子ダブルス

▽準決勝
本間谷口（トヨタ自工） 2（12-15 15-2 15-6）1 関村牧野（高岡市役所）
梅野尾飯野（ヨネックス） 2（15-9 15-18）0 河村今泉（高岡市役所）

▽決勝
梅野尾飯野（ヨネックス） 2（9-15 15-8 15-12）1 本間谷口

◆女子ダブルス

▽準決勝
相沢竹中（ヨネックス） 2（15-5 15-18）0 川東山口（百十四銀行）
湯木池田 2（15-10 15-5）0 藤井沼能（旭光学）

▽決勝
湯木池田 2（17-16 15-4）0 相沢竹中

第5回全国中学生バドミントン大会
8・19 東京大田区体育館

男女とも熊本制す
将来が楽しみの原口選手

▽準決勝
小島（RS元町） 銭谷（河崎） 2（15-5 15-9）0 池田 東（電電東京） 梅野尾（ヨネックス）

▽決勝
飯野（ヨネックス） 土田（日大） 2（15-12 17-15）0 本間（トヨタ自工） 今泉（高岡市役所）
飯野 土田 2（15-7 15-3）0 小島 銭谷

全日本男子オールスターバドミントンダブルス75
8・31 東京台東区体育館

飯野・土田組楽勝す
池田・梅野尾は小島・銭谷に苦杯

◆男子

▽準決勝
滋賀 2-0 奈良
熊本 2-0 埼玉

▽決勝
熊本 2-0 滋賀

舞鶴 鎌迫 2（12-15 15-5 15-12）1 桑野 岩坂
本石 2（15-5 15-6）0 滝川

◆女子

▽準決勝
北海道 2-1 大阪
熊本 2-0 福井

▽決勝
熊本 2-0 北海道

相良 高松 2（15-9 15-1）0 佐藤 中村
原口 2（11-0 11-1）0 児玉

3月1日から料金を改訂させていただきます

読者の皆様もすでにご存知のことと思いますが、1月25日から郵便料金が大幅に値上げされます。平均2・5倍というもので、本誌の郵送料はもちろん例外ではありません。加えて印刷諸経費も上がっており現在の年間購読料金では刊行を続けることがむずかしくなってしまいました。

そこで左記のとおりの予定で、誌代・年間購読料金の改訂を行わざるをえなくなりました。はなはだ心苦しいことでありますが、内容の充実と、刊行の正常化でお許しいただきたいと考えております。いっそうのご指導ご協力をお願いいたします。

記

改訂時期＝昭和51年3月1日
新料金＝一部三〇〇円
一年間定期購読料金＝三〇〇〇円

いずれも送料とも。

2月末日の消印まで旧料金で受けつけますので、期限切れの前に継続料金を払い込まれてもけっこうです。以上

「ユーバー杯奪還への道」が刊行されます!!

昨年6月に行なわれました第7回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会において、わが日本チームは地元インドネシアと決勝で対戦し、惜しくも敗れ、4連覇をはばまれましたことは、読者の皆様ご承知のとおりです。

現在、日本女子チームはユーバー杯奪還のため、役員・選手一丸となって努力・研鑽をつづけております。

そこで、私ども日本バドミントン協会出版局では、次のとおり、「第7回ユーバー杯大会記録――**ユーバー杯奪還への道**」を刊行いたす運びとなりました。

- **体裁**＝A5判（約21センチ×15センチ）
- **ページ数**＝約120ページ うちカラー16ページ（予定）
- **発行**＝3月10日
- **定価**＝1000円

本書は、第7回ユーバー杯大会の全記録を収録し、関係役員・選手の手記・談話、観戦記を中心に、さらにカラー写真を含む多くの写真を収め、各国選手のフォームやプレーの分析もできるように構成したものです。

現在、プレーヤーとして第一線で活躍中の人々はもちろん、小中学生や家庭婦人、また指導の立場にある人々にも必ず役に立つものです。

本書は、定価1000円ですが、「バドミントン界」の読者の皆様には、**特価900円、送料サービス**で販売いたします。ご希望の方は、今すぐハガキで、住所・氏名・学校または会社名、郵便番号、電話、申込部数を明記のうえ、**日本バドミントン協会出版局「ユ杯」**係までご予約ください。

ご予約の皆様には、ハガキが到着いたしますと、専用振込用紙をお送りいたしますので、その用紙でお近くの郵便局から代金をお振り込みいただきます。

この機会にぜひ、一割引・送料サービスで、ご予約くださるようお願いいたします。

- **予約宛先**＝〒150東京都渋谷区神南一ノ一ノ一・岸記念体育会館・日本バドミントン協会出版局「ユ杯」係

いますぐ ご予約を

予約特価　900円
〈送料サービス〉

A5判 120ページ
カラー写真多数収録

小中学生から第一線プレーヤーまで～家庭婦人～指導者にも興味ある記事がいっぱい

大会予定カレンダー

◆すでに行われた大会

1月24・25日＝トマス杯大会アジア東地区決勝（東京）
2月1日＝第5回国際競技大会（日独対抗）（会津若松）
2月8日＝同大会（函館）
2月11日＝同大会（東京）
2月14・15日＝全日本総合選手権団体戦（東京）

◆開催を予定し準備中の大会

3月5日＝第7回全日本女子チャンピオンズトーナメント（東京代々木第二体育館・午後3時から）
3月末日まで＝トマス杯大会アジア地区決勝（場所対戦相手未定）
5月初＝全日本実業団選手権（神奈川藤沢市）
5月25～6月5日＝トマス杯大会（バンコク）

以下詳細未定の大会

全日本社会人選手権（宮崎）
全国高校総合体育大会（8月）
全日本教職員選手権（東京）
国民体育大会（10月）
全日本学生選手権
全日本総合選手権（12月・東京）

バドミントン界　第75号　第8巻第1号　定価 220円

昭和51年1月1日発行
編集／発行人・秦　浩

©1976　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会

郵便番号150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111（代表）内線351／03－467－7095（直通）
振替　東京32193

印刷所・明宏印刷株式会社　東京都豊島区南大塚2－29－8

スピード、パワー、スマート——近代バドミントンを追求するゴーセン

人気独占



Hy Thomas NO.845 ハイ・トーマス

勝ちたいなら——ゴーセン!

ゴーセンバドミントンラケットの人気が急上昇しています。一流選手のアドヴァイスを積極的に取り入れ、開発された特殊合板による力強いフレーム、抜群の弾力性、重量・バランスの素晴らしさなどがその秘密。

さらに世界で初めてのステンレスワイヤー巻付・特殊油・香水入りガット《ウィンテックス》が加わればまさに鬼に金棒。あなたのスコアアップはゴーセンにおまかせ下さい。

★世界のガットと言われるゴーセンガットは、その一本一本にすべて品質保証のネームが記入されています。よく確かめ類似品にご注意下さい。

●シャープさで定評のゴーセンバドミントンラケットもお試し下さい。

ラケットの決め手

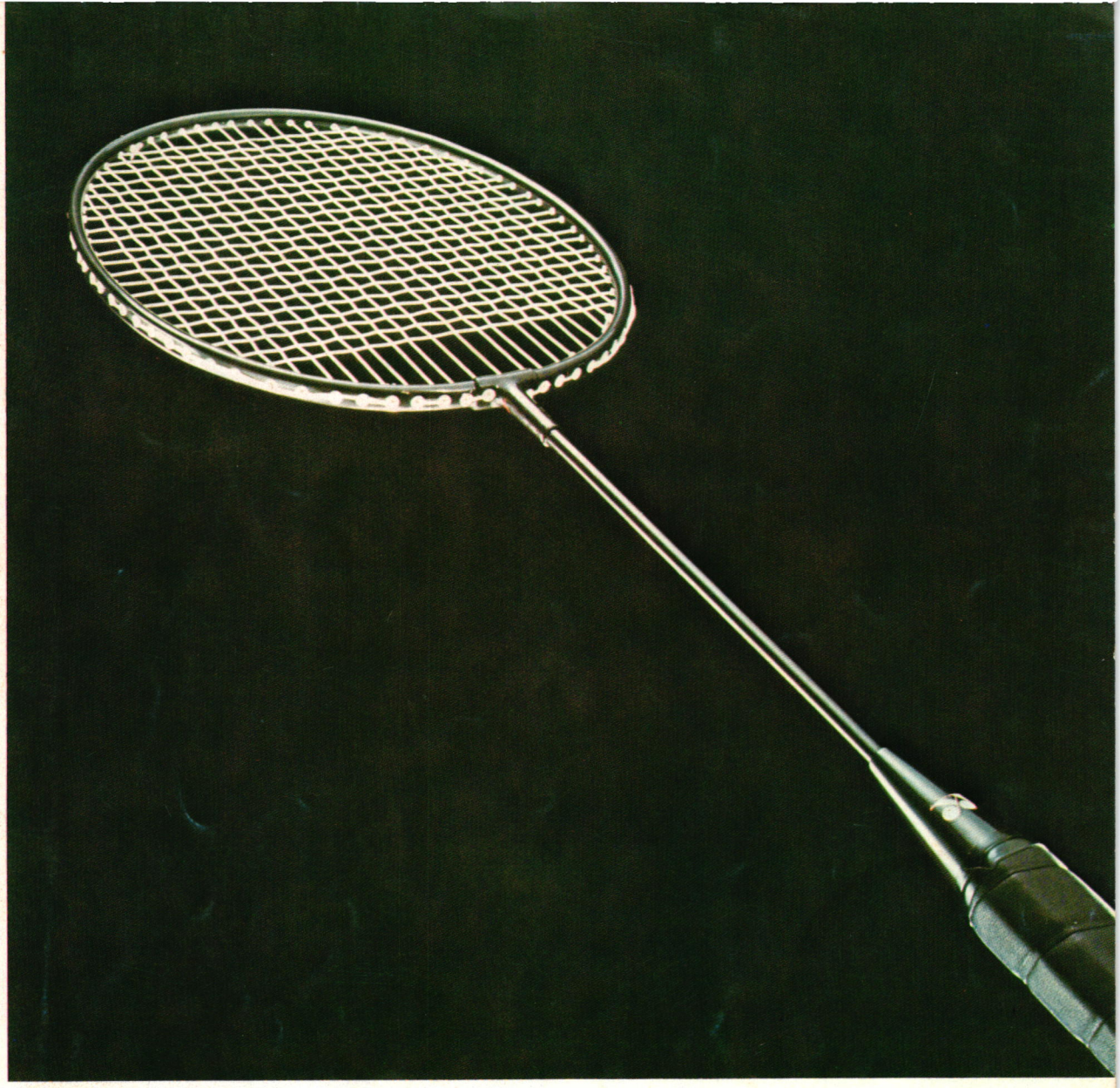
Hy Thomas

株式会社ゴーセン

●本社・大阪市東区豊後町4 ☎06-942-5816

●東京支店・東京都台東区蔵前4-14-2 ☎03-862-6576

月刊「バドミントン界」第75号
昭和五十一年一月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日　第三種郵便物認可
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会　定価二百二十円



時速270kmのスマッシュ！

まっ黒いラケットから、まっ白いシャトルコックが時速270kmのスピードで、相手コートにたたきつけられる。目にもとまらぬスマッシュ。今や噂のラケット、ブラッキー。その秘密はヨネックスが初めて可能にした、極細の特殊ステンレスシャフト。ぐんと細身で、普通より長目ですから、まるでムチのように打つ瞬間鋭利にしなります。息をのむ反発力です。そのうえ、特殊合金フレームの強さがプラスされ、切れ味のよい攻撃力。あそこで、ここで、ブラックパワーと恐れられています。

No.8100 BLACKEN

● No. 8100ブラッキー……￥5,500

YONEX